

参考資料

1. まちづくり構想策定までの経緯
2. 皆様からのご意見
3. 用語集

参考資料

1. まちづくり構想策定までの経緯

(1) 江東区都市計画マスタープラン 2022 推進会議

① 会議日程

	年月日	議題
第1回	令和4年 6月 7日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」について
第2回	令和4年 7月27日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」について
第3回	令和4年11月21日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想(素案)」について
第4回	令和5年 3月 3日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想(案)」について

② 名簿

	所属	氏名
学識経験者	東京都立大学 都市環境学部教授	市古 太郎
	東洋大学 人間科学総合研究所 客員研究員	川内 美彦
	芝浦工業大学 建築学部教授	志村 秀明◎
	千葉大学大学院 工学研究院教授	村木 美貴
	早稲田大学 理工学術院教授	森本 章倫
	千葉大学大学院 園芸学研究科教授	柳井 重人

◎委員長

(2) 江東区地下鉄8号線沿線まちづくり検討部会(庁内組織)

① 会議日程

	年月日	議題
第1回	令和4年 5月24日	・江東区地下鉄8号線沿線まちづくり検討部会設置要領の改正について ・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」の策定方針について ・構想策定に係るワークショップの実施について ・構想策定に係るアンケート調査の実施について ・機運醸成イベントについて
第2回	令和4年 7月21日 (書面形式)	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」策定に向けた現状の報告と予定について ・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」策定フローについて
第3回	令和4年10月19日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」(素案)たたきについて
第4回	令和4年11月15日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」(素案)について
第5回	令和5年 2月17日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」(案)について

② 名簿

部会長	地下鉄8号線事業推進室長
副部会長	都市整備部長 土木部長
部会員	政策経営部長 総務部長 地域振興部長 企画課長 計画推進担当課長 港湾臨海部対策担当課長 防災課長 地域振興課長 文化観光課長 都市計画課長 まちづくり推進課長 住宅課長 建築課長 建築調整課長 地域整備課長 地下鉄8号線事業推進課長 沿線まちづくり担当課長 管理課長 道路課長 河川公園課長 施設保全課長 交通対策課長

(3) 江東区議会

会議名	年月日	議題
地下鉄8号線延伸・交通対策推進特別委員会	令和4年 6月24日	・(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想策定について
地下鉄8号線延伸・交通対策推進特別委員会	令和4年10月14日	・(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想策定について
地下鉄8号線延伸・交通対策推進特別委員会	令和4年12月 7日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」(素案)について
地下鉄8号線延伸・交通対策推進特別委員会	令和5年 3月10日	・「(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想」(案)について

2. 皆様からのご意見

ご意見把握の実施概要

実施方法	実施概要
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 実施期間：令和4年6月10日（金）～令和4年6月30日（木） 実施方法：紙面、江東区ホームページ
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 実施日：令和4年7月23日（土）、令和4年8月27日（土）、令和4年9月10日（土）
出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 実施日：令和4年9月15日（木）、令和4年9月16日（金）、令和4年9月20日（火）
機運醸成イベント	<ul style="list-style-type: none"> 実施日：令和4年10月29日（土）、令和4年11月6日（日）
説明会 （オープンハウス型）	<ul style="list-style-type: none"> 実施期間：令和4年12月21日（水）～令和4年12月23日（金）
パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> 実施日：令和4年10月29日（土）、令和4年11月6日（日）
説明会（従来型）	<ul style="list-style-type: none"> 実施期間：令和5年1月10日（火）～令和5年1月14日（土）

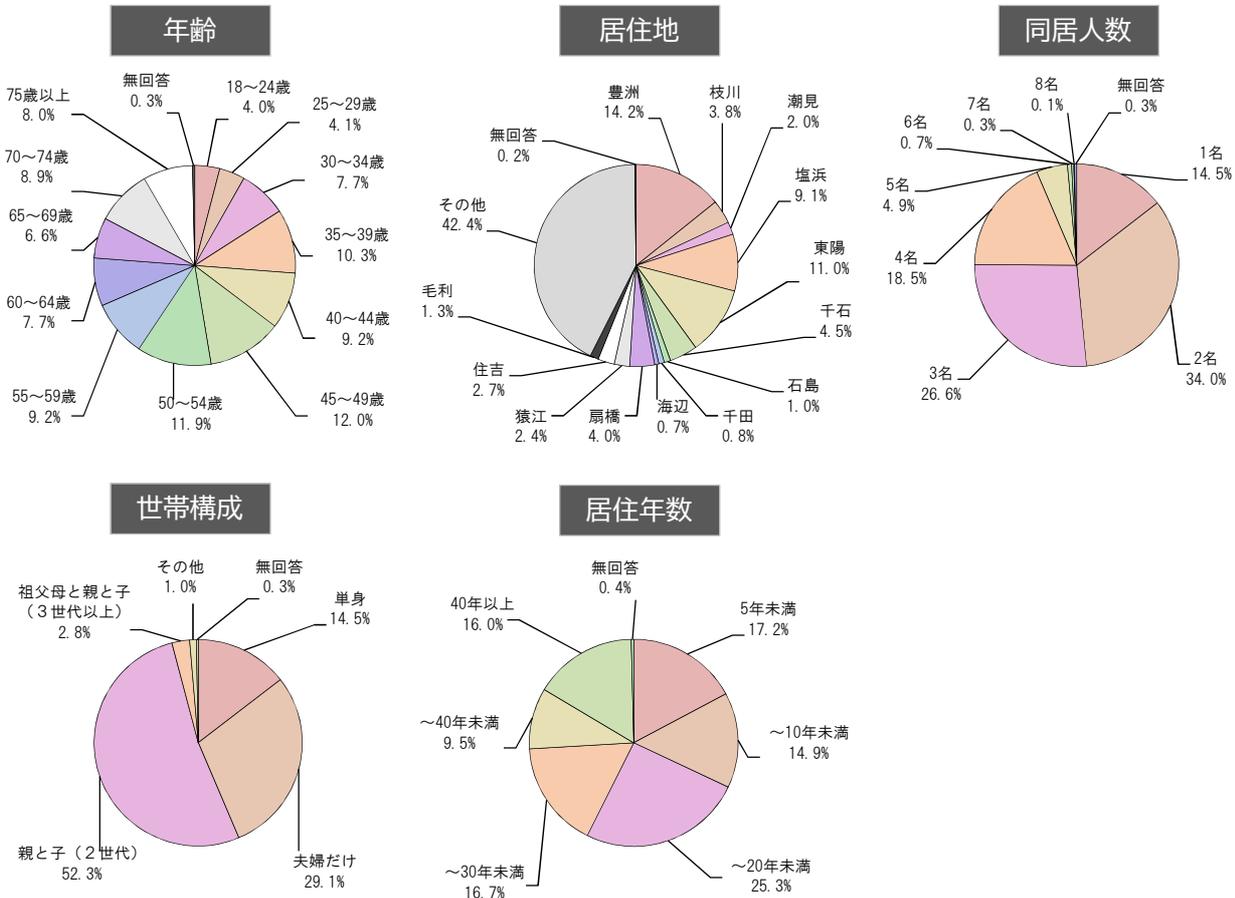
(1) アンケート

① 実施概要

調査内容の概要	回答者の属性、地下鉄8号線延伸前後の行動範囲、まちづくりに関する事項		
実施期間	令和4年6月10日(金)～令和4年6月30日(木) ※令和4年7月30日(土)までに届いた分にて集計		
実施方法	紙面	WEB(江東区ホームページ)	
		江東区内	江東区外
調査地域	江東区全域	—	
調査対象	江東区にお住いの18歳以上の方7,000人 (沿線*3,500人/沿線外3,500人)を無作為抽出	—	
調査方法	7,000人に郵送同封した返信用封筒による回収	江東区ホームページによるWEB回答	
対象者数(配布数)	1,770件	—	
回収率(WEBは件数)	25.3%	1,392件	63件

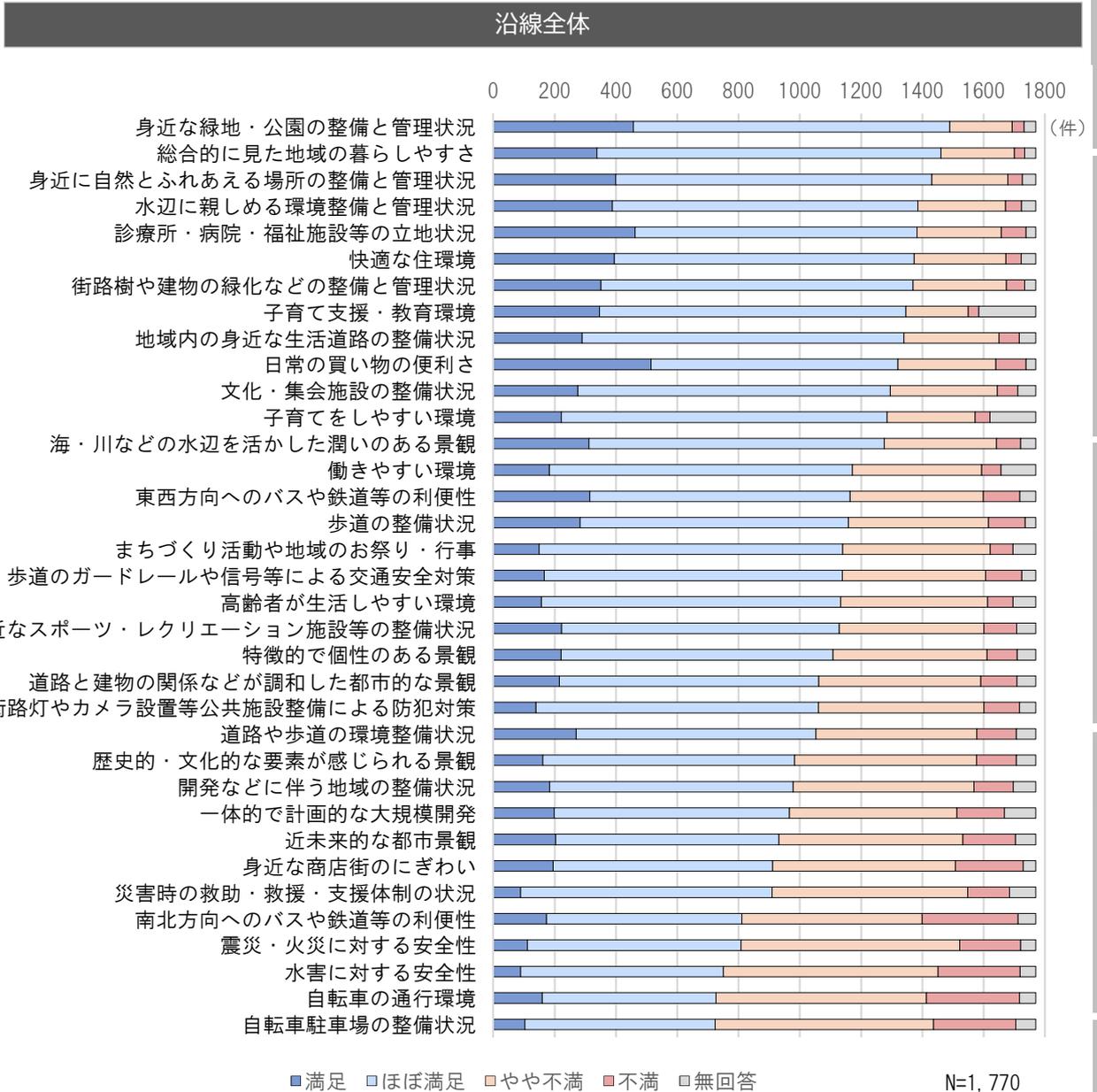
② 集計結果(紙面アンケート)

1) 回答者の属性 N=1,770



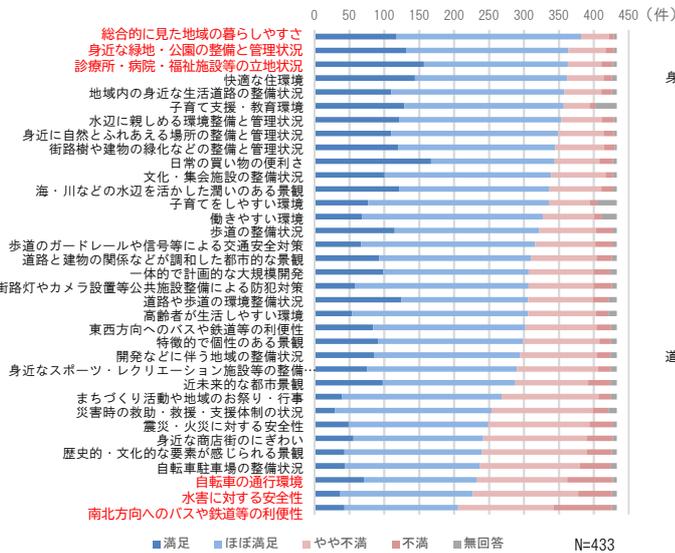
2) 地域満足度

- 総合的に地域に対する満足度はいずれの駅周辺でも高い傾向にある。
- 南北方向へのバスや鉄道などの利便性や自転車の通行環境、自転車駐車場の整備状況といった交通、震災や火災、水害といった防災に対する満足度がいずれの駅周辺でも低い。

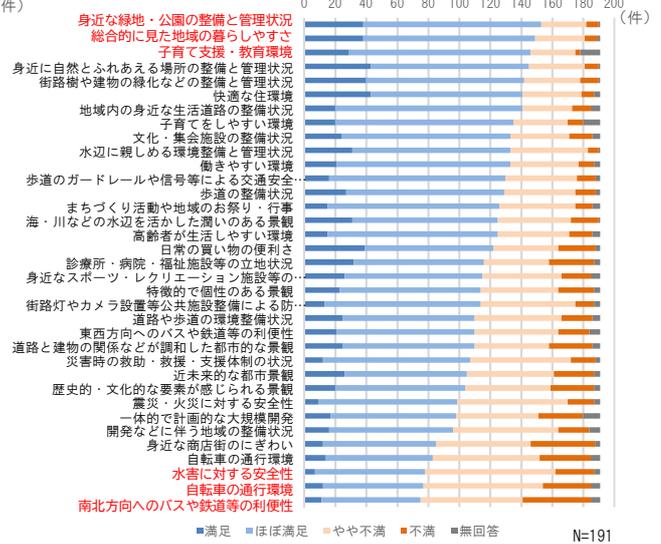


各駅周辺

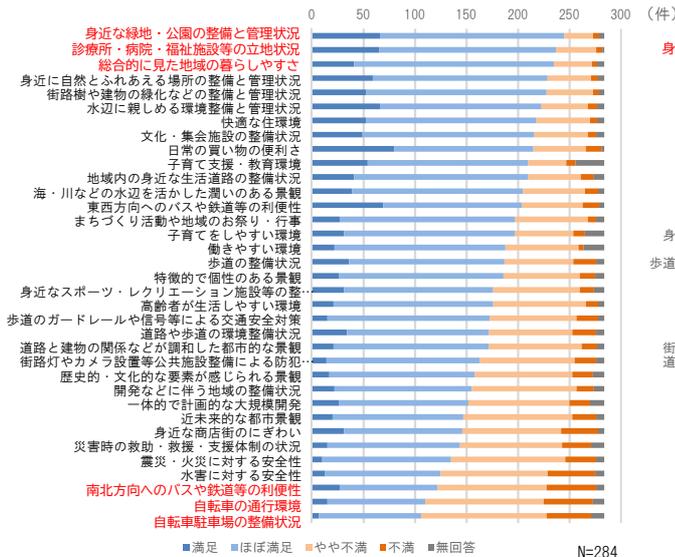
豊洲駅周辺



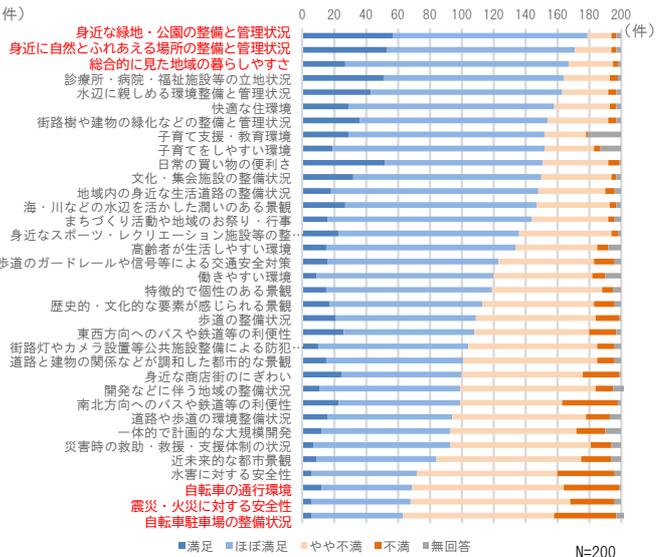
(仮称) 枝川駅周辺



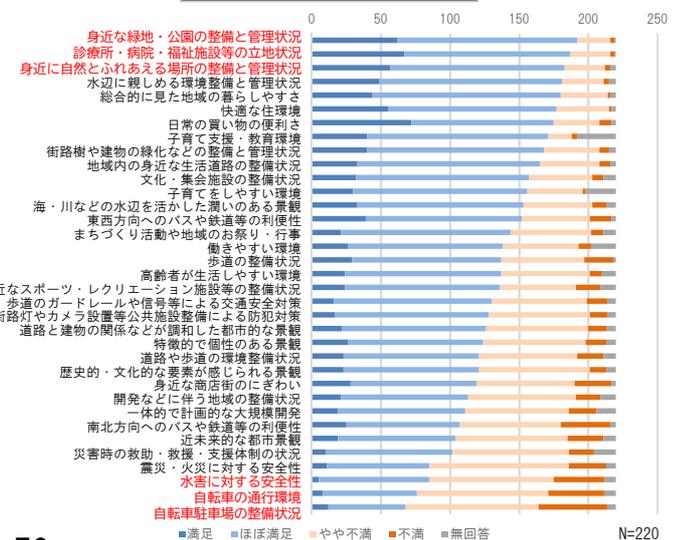
東陽町駅周辺



(仮称) 千石駅周辺

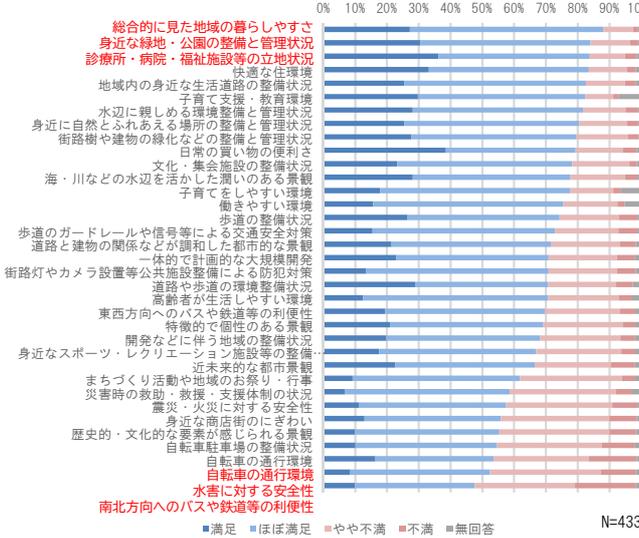


住吉駅周辺

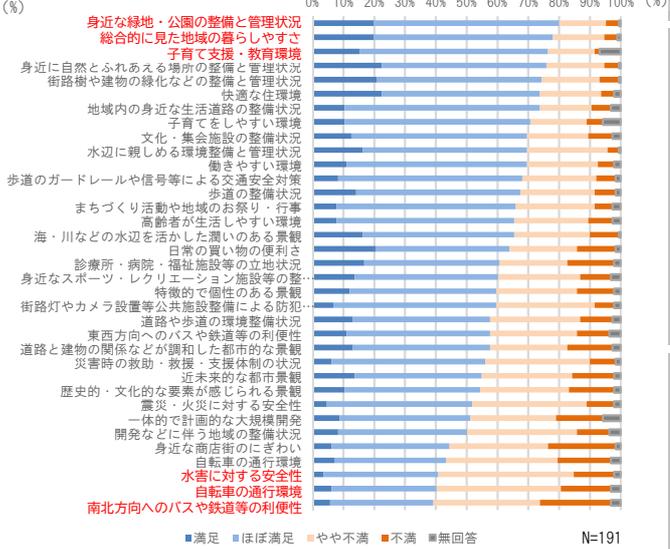


各駅周辺

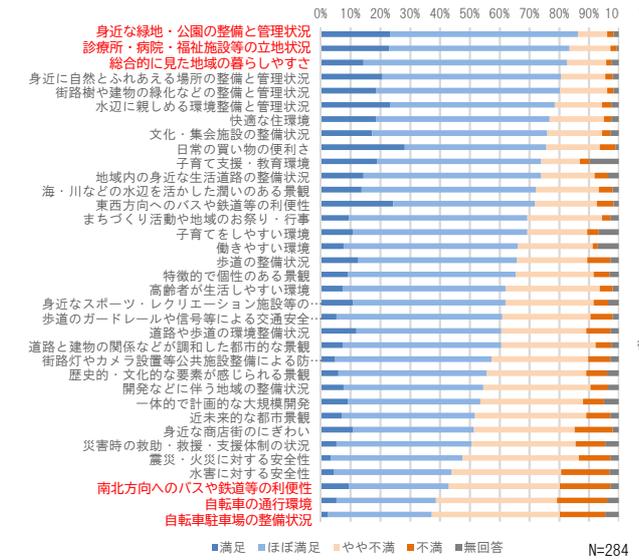
豊洲駅周辺



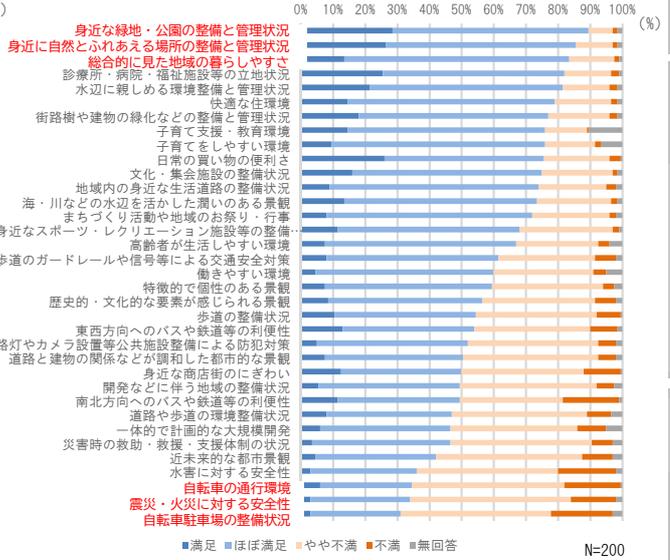
(仮称) 枝川駅周辺



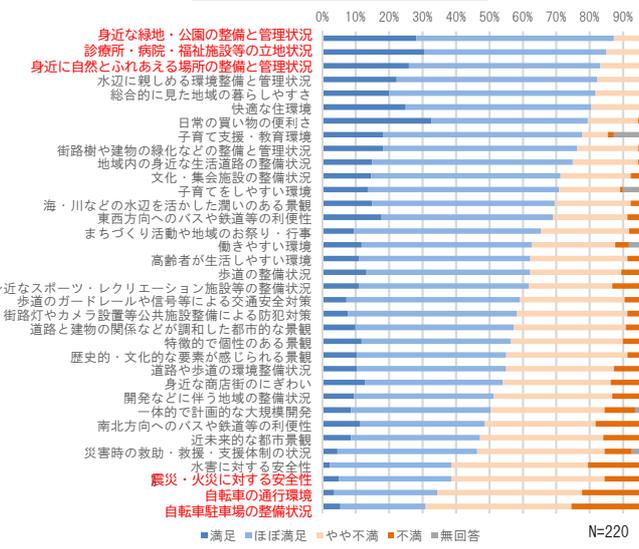
東陽町駅周辺



(仮称) 千石駅周辺

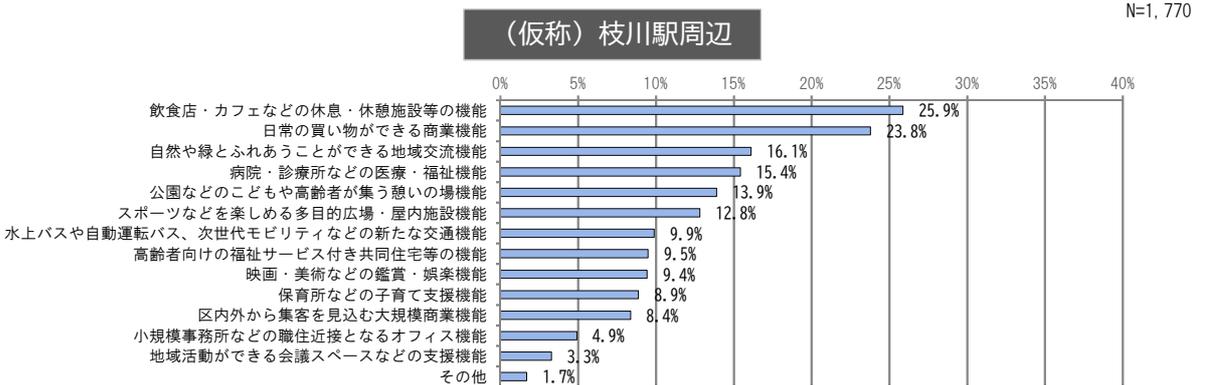
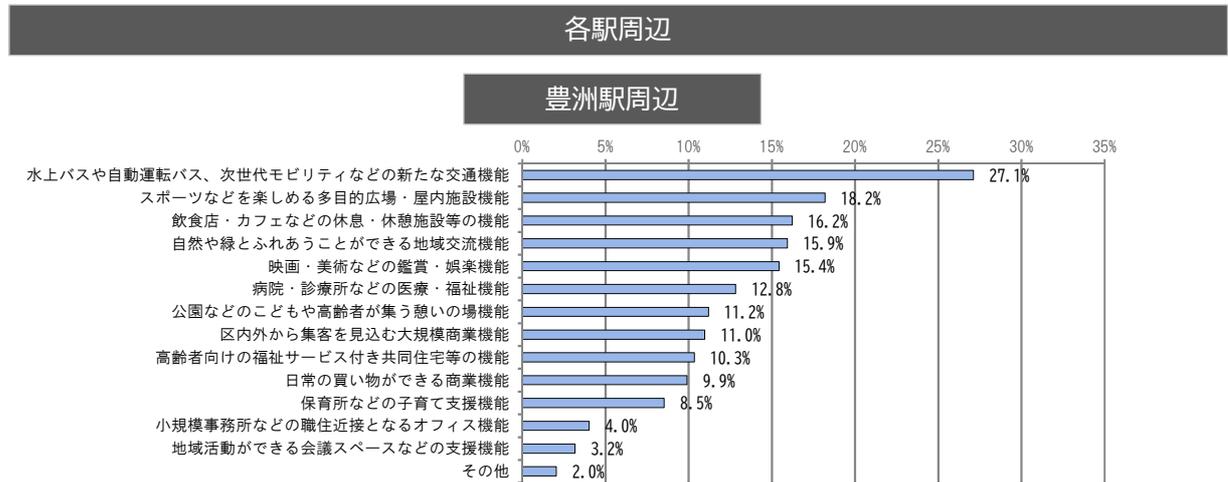
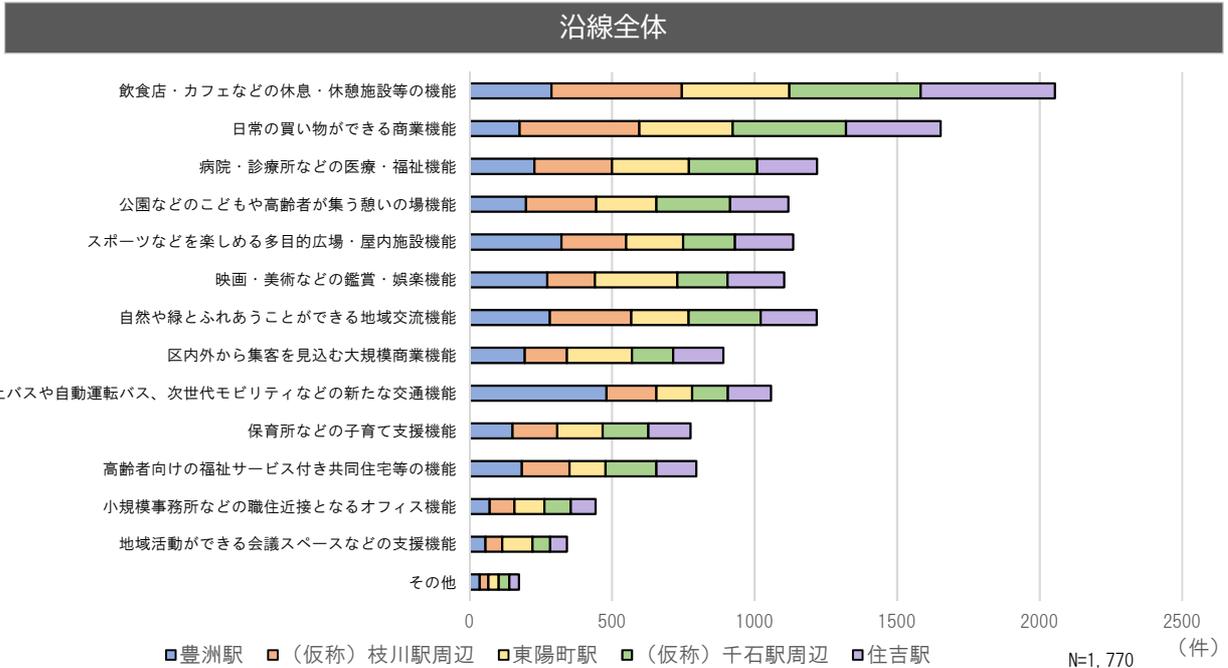


住吉駅周辺



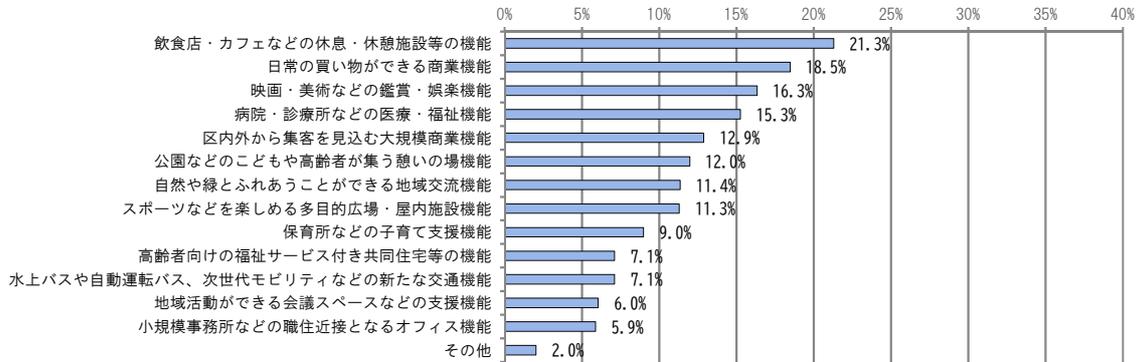
3) 地域の拠点としてであるとよいと思う新たな機能

- 飲食店やカフェ等の休息・休憩施設、日常の買い物ができる商業施設を望む意見が、いずれの駅周辺でも多くみられた。
- 近代的なまちづくりが進む豊洲駅周辺では、水上バスや自動運転バス、次世代モビリティなどの新たな交通機能を望む意見が特に多くみられた。



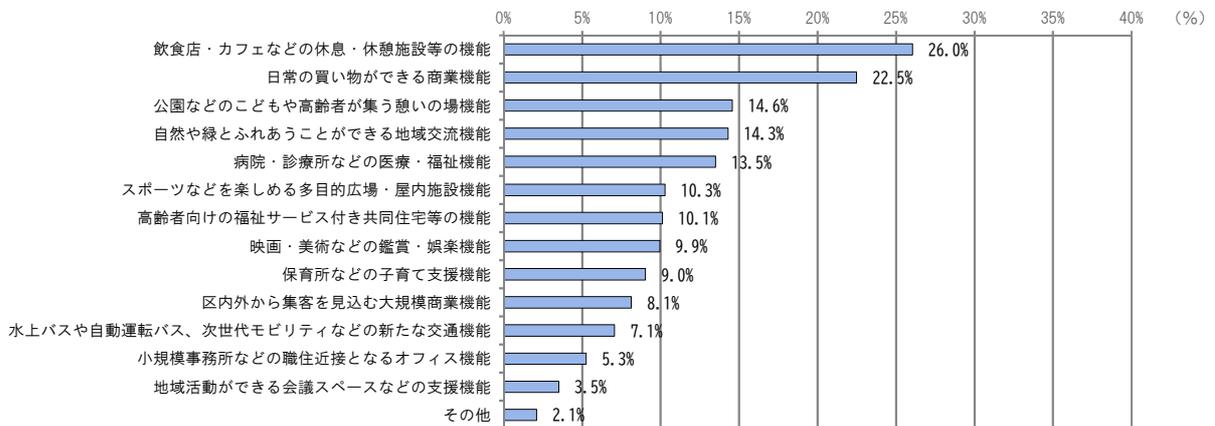
各駅周辺

東陽町駅周辺



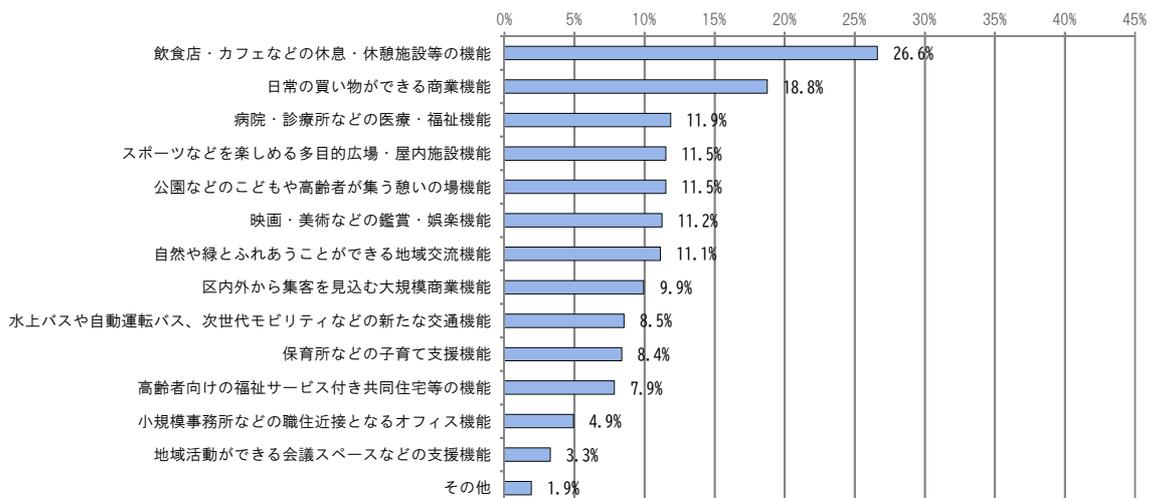
N=1,770

(仮称)千石駅周辺



N=1,770

住吉駅周辺

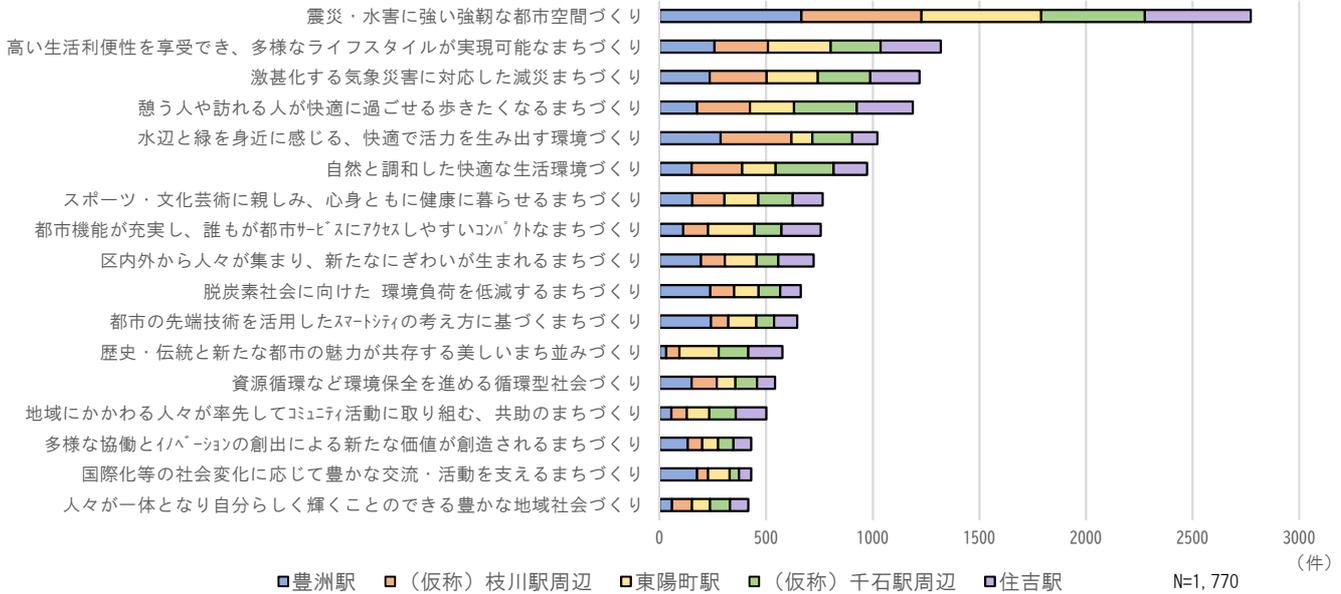


N=1,770

4) 地下鉄8号線の延伸に伴う駅周辺のまちづくりで特に重要と考える取組

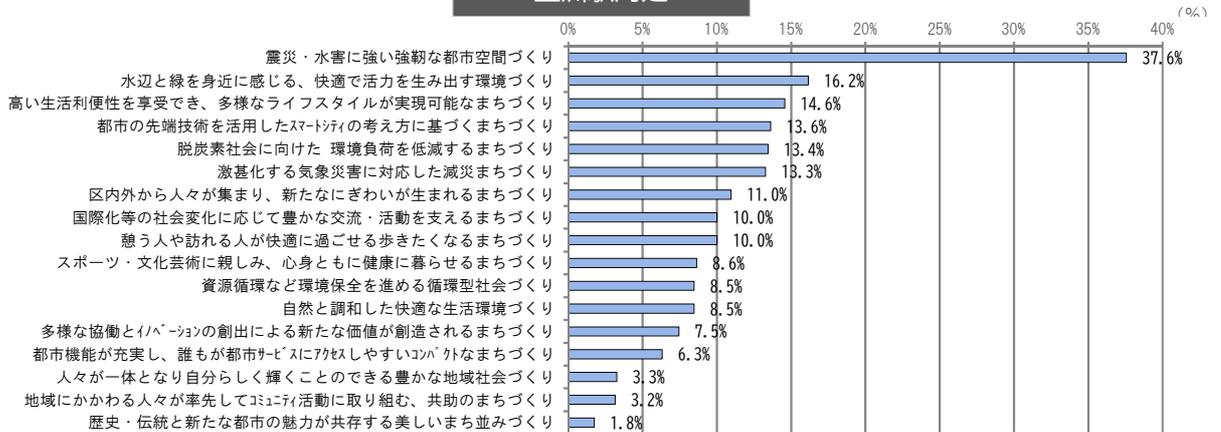
●震災・水害に強い強靱な都市空間づくりを望む意見が、いずれの駅周辺でも最も多くみられた。

沿線全体

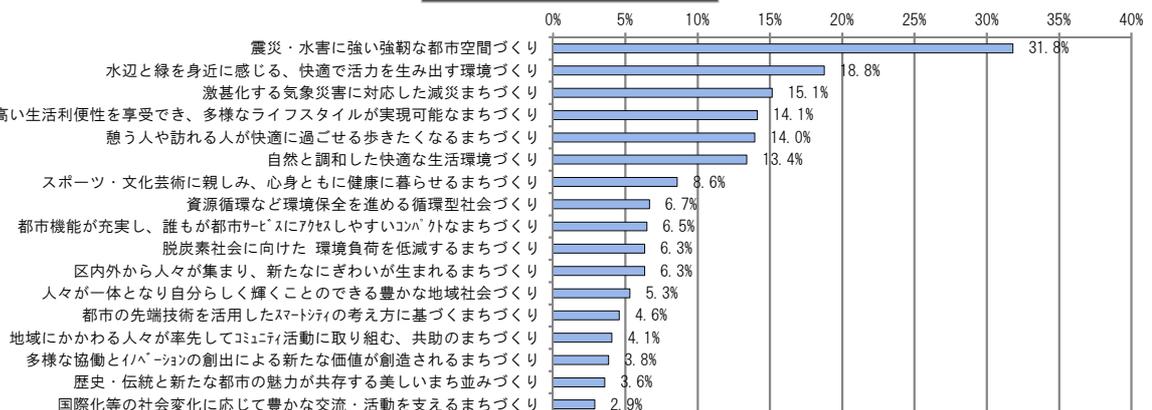


各駅周辺

豊洲駅周辺

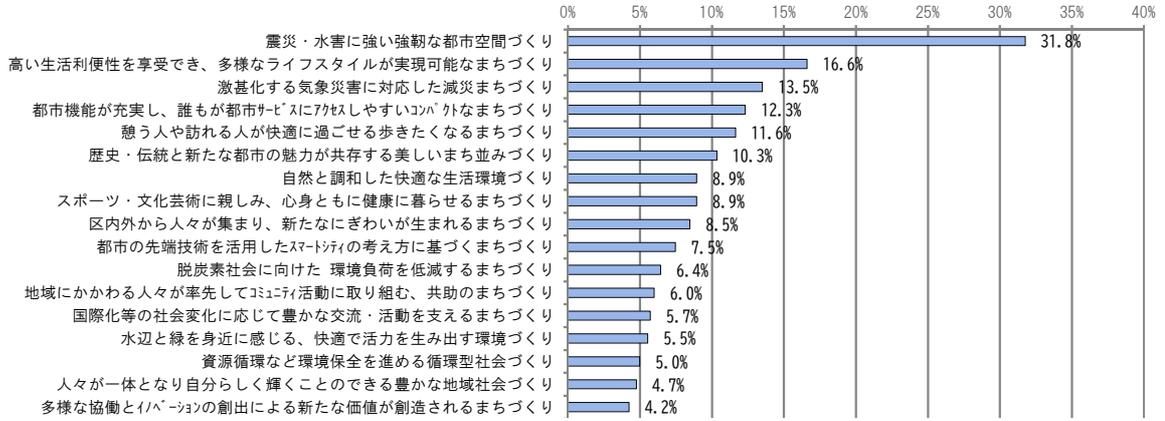


(仮称) 枝川駅周辺



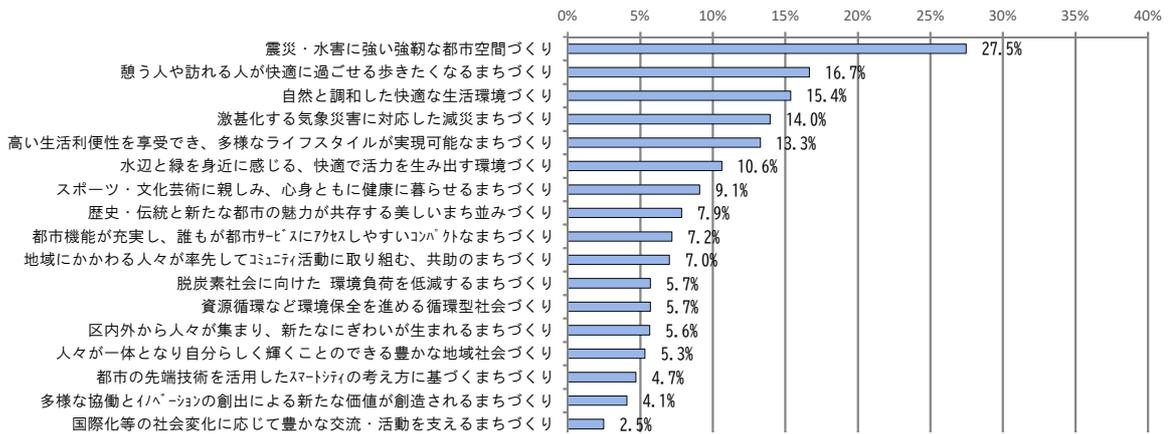
各駅周辺

東陽町駅周辺



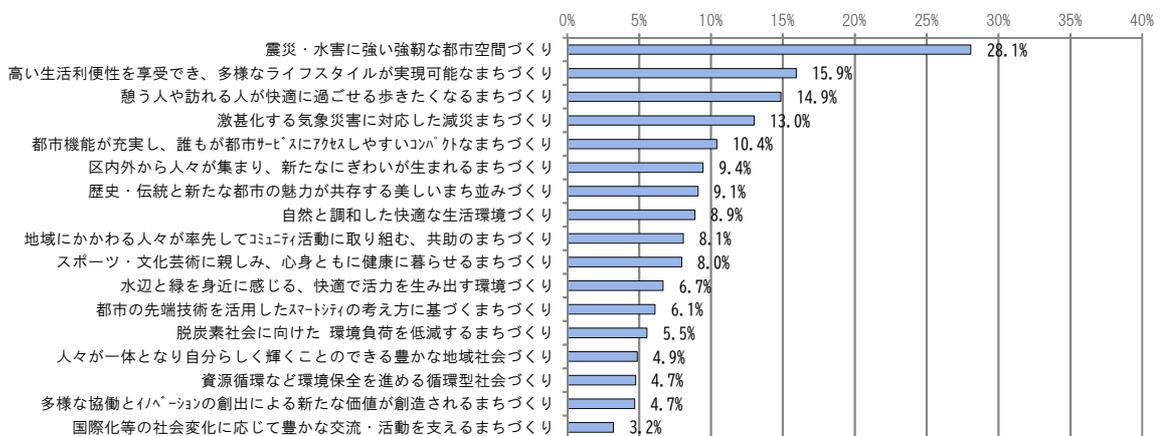
N=1,770

(仮称)千石駅周辺



N=1,770

住吉駅周辺



N=1,770

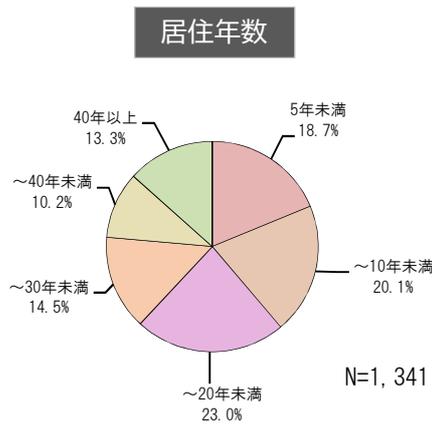
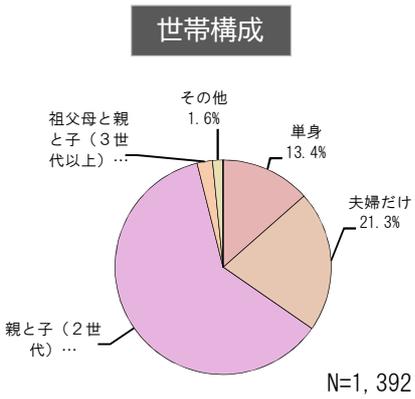
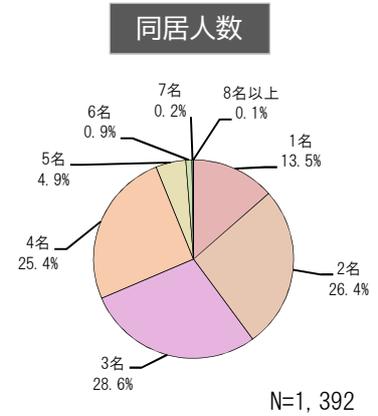
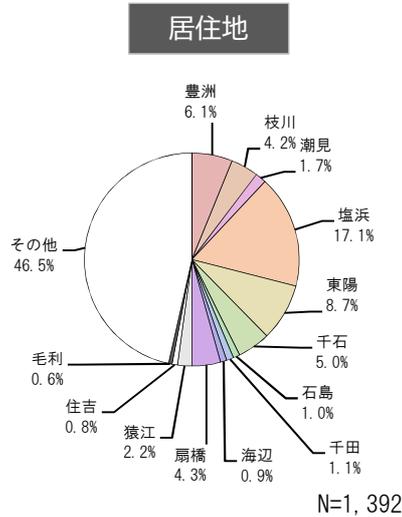
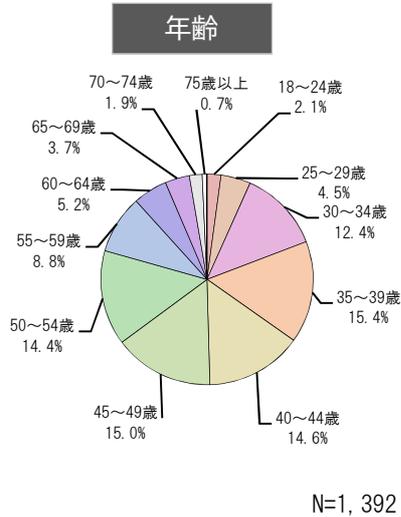
5) 地下鉄8号線（有楽町線）延伸に伴う効果・影響を最大限活かすため、まちづくりにおいて検討すべき事項、取り組むべき事項等

- 「バス」に関する意見が最も多く、「道路整備」、「駐輪場」の交通に関する回答が上位に挙げられた。

意見区分	件数
バスについて	33
道路整備について	30
商業施設について	28
飲食店について	26
駐輪場について	22
混雑について	18
駅周辺の開発について	17
駅の出入口について	17
公園について	16
自転車レーンについて	15
災害（水害）について	14
地域の特徴について	13
治安について	13
高齢者について	13
自転車について	13
まちづくりに期待について	12
災害について	12
バリアフリーについて	12
子どもについて	12
防犯について	12

③ 集計結果 (WEB アンケート区内回答)

1) 回答者の属性



2) 沿線のまちづくりにおいて活かすべき魅力等と解決すべき課題等

- 紙面アンケートにおいて「身近な公園・緑地の整備」の満足度が高く、「水辺に親しめる環境整備」は低かったが、WEB アンケートでは、公園とともに水辺を魅力とする回答が多かった。
- 紙面アンケートにおいて「南北方向へのバスや鉄道等の利便性」や「自転車の通行環境」、「自転車駐車場の整備」の交通、「震災・火災に対する安全性」や「水害に対する安全性」の防災に関する満足度が低かったが、WEB アンケートでは、「バスに関して」や「混雑」など交通を課題とする回答が多かったが、「災害（水害）」の防災を課題とする回答は少なかった。

活かすべき魅力等

意見区分	件数
公園	87
水辺	45
飲食店	42
まちづくりに期待	36
商業施設	35
駅周辺の開発	31
緑	29
商店街	27
文化施設	25
下町	24
散歩	24
運河	23
魅力を感じない	20
新駅の位置	20
利便性	19
早期開業	19
スーパーマーケット	17
景観	17
憩いの場	16
バスに関して	15

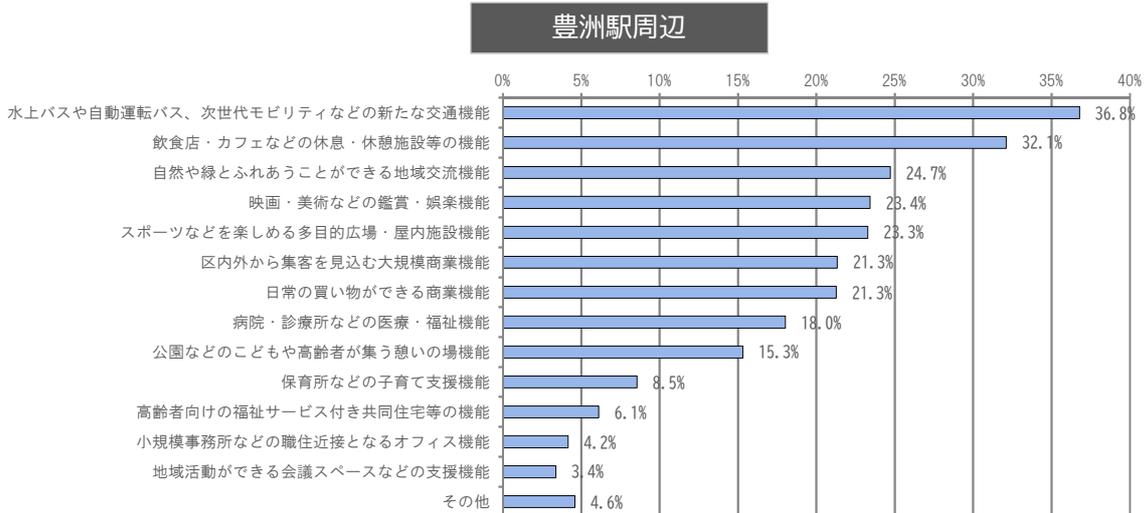
解決すべき課題等

意見区分	件数
バスに関して	53
混雑	50
道路整備	43
駐輪場	42
飲食店	36
商業施設	30
エレベーター・エスカレーター	25
道幅が狭い	24
駅の入出口	23
駅周辺の開発	22
商店街	22
魅力を感じない	18
災害（水害）	17
スーパーマーケット	17
バリアフリー	16
子育て	15
高齢者	15
JR 京葉線と接続	14
駅の整備	14
新駅の位置	13

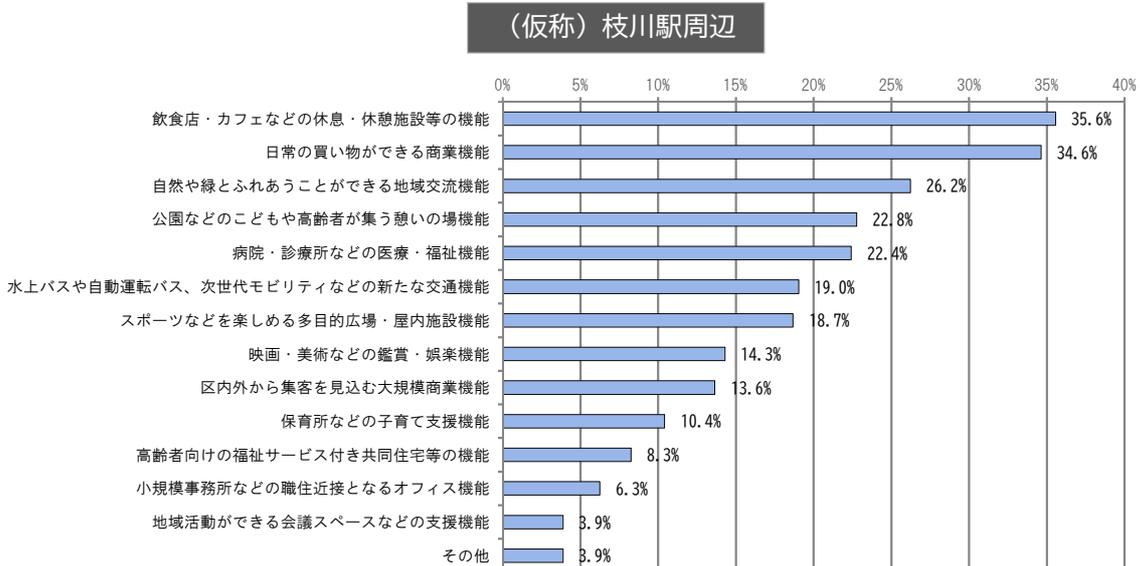
3) 地域の拠点としてあるとよいと思う新たな機能

●紙面アンケートと同様、WEB アンケートにおいても、豊洲駅周辺では「水上バスや自動運転バス、次世代モビリティなどの新たな交通機能」、その他の駅周辺では「飲食店・カフェなどの休息・休憩施設等の機能」の回答が最も多かった。

各駅周辺



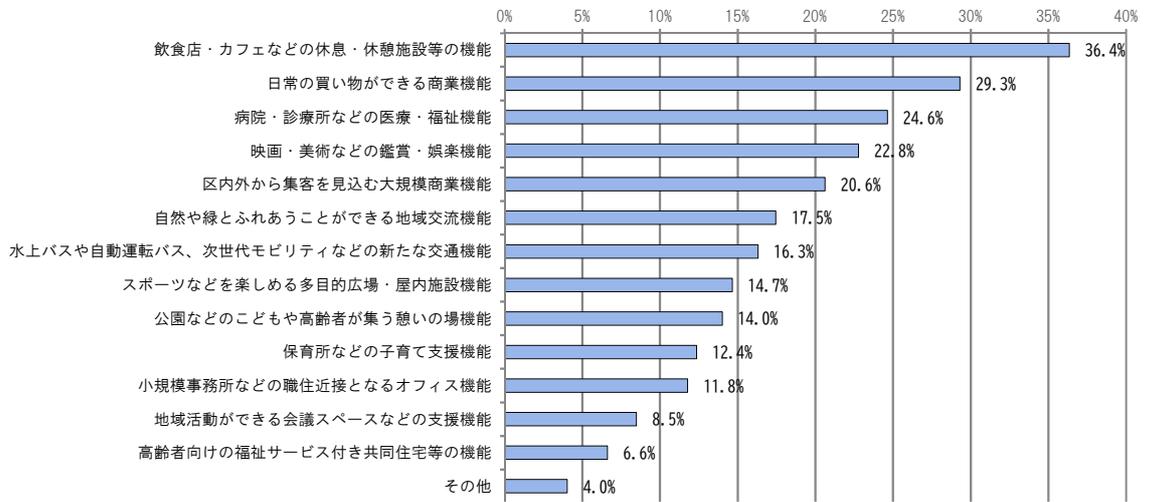
N=1,392



N=1,392

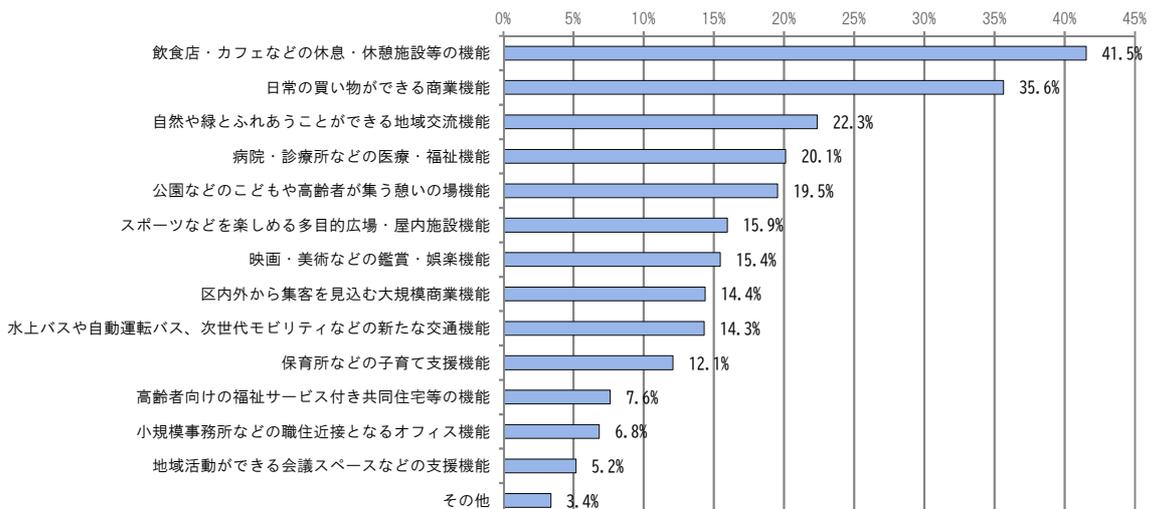
各駅周辺

東陽町駅周辺



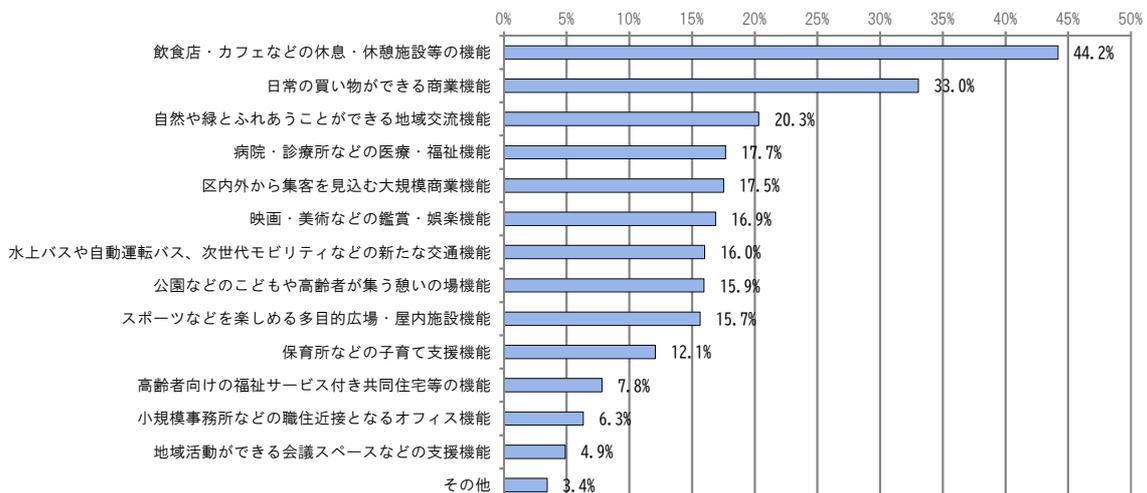
N=1,392

(仮称)千石駅周辺



N=1,392

住吉駅周辺



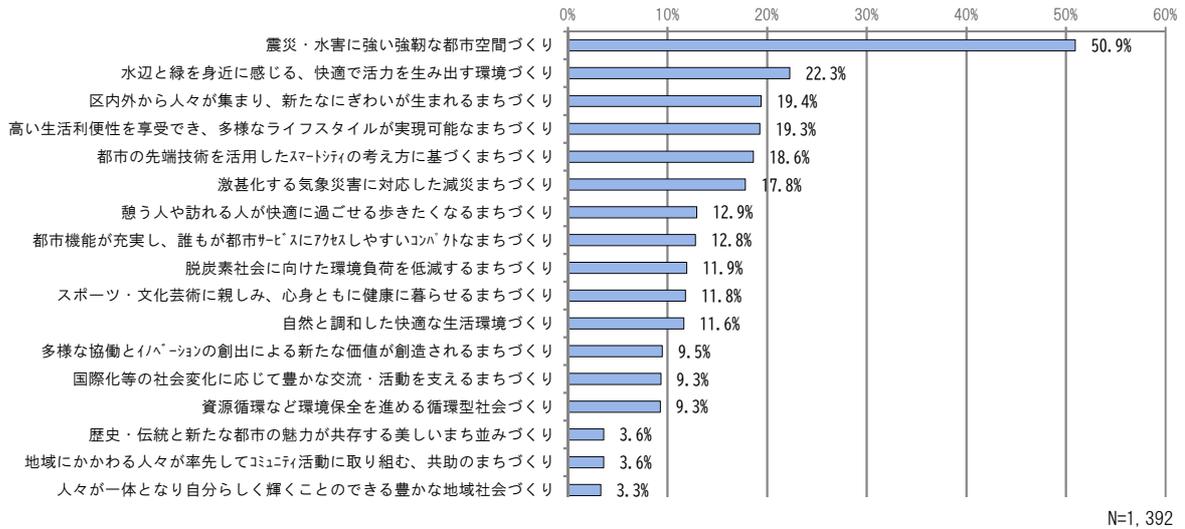
N=1,392

4) 地下鉄8号線の延伸に伴う駅周辺のまちづくりで特に重要と考える取組

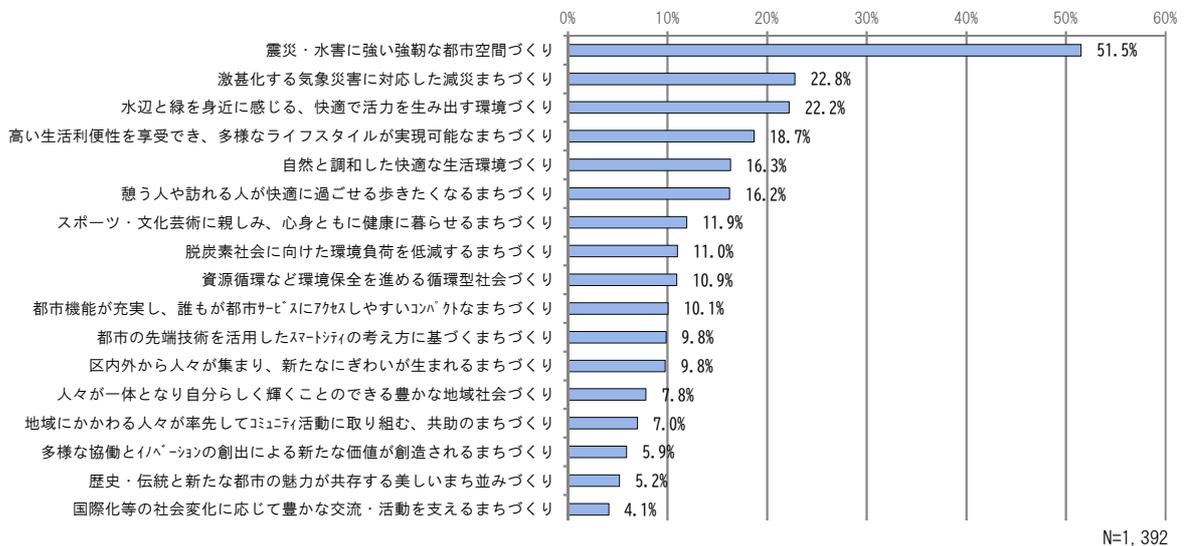
●紙面アンケートと同様、WEB アンケートにおいても、いずれの駅周辺でも「震災・水害に強い強靱な都市空間づくり」の回答が最も多かった。

各駅周辺

豊洲駅周辺

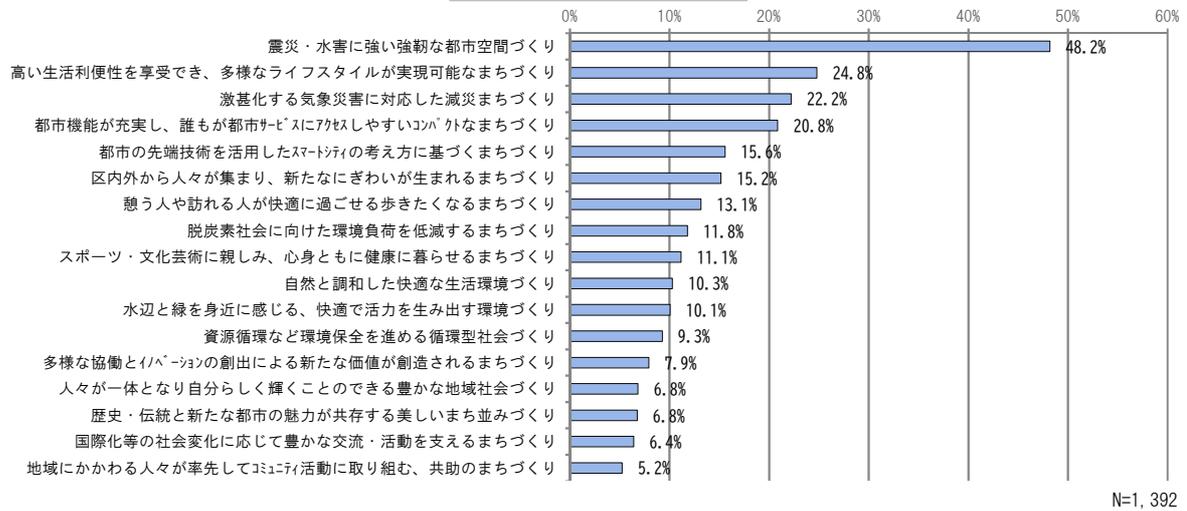


(仮称) 枝川駅周辺

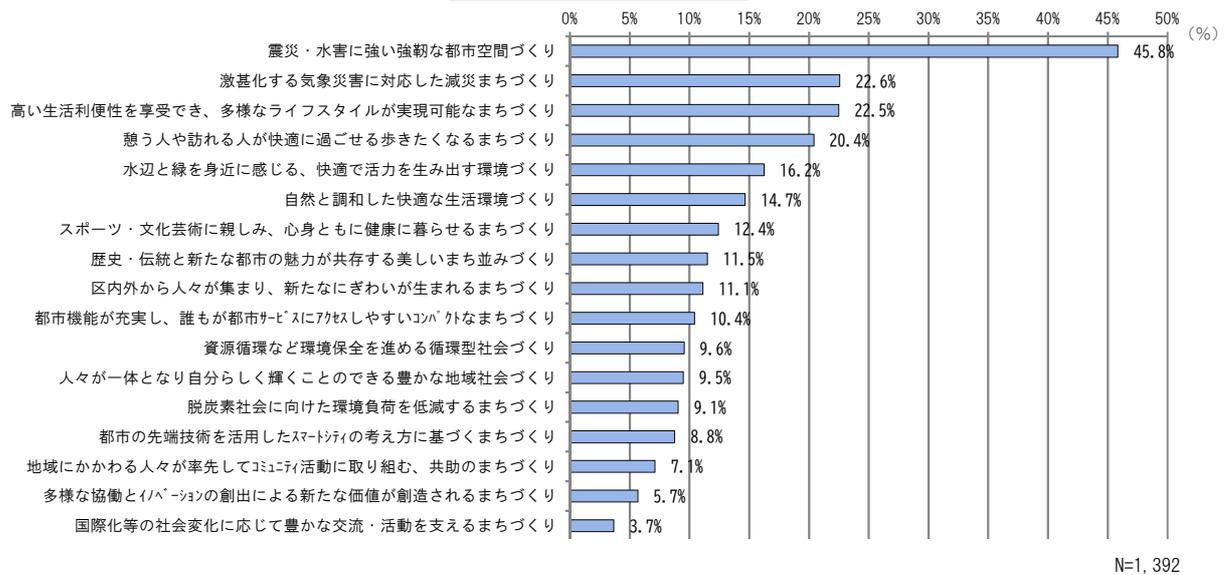


各駅周辺

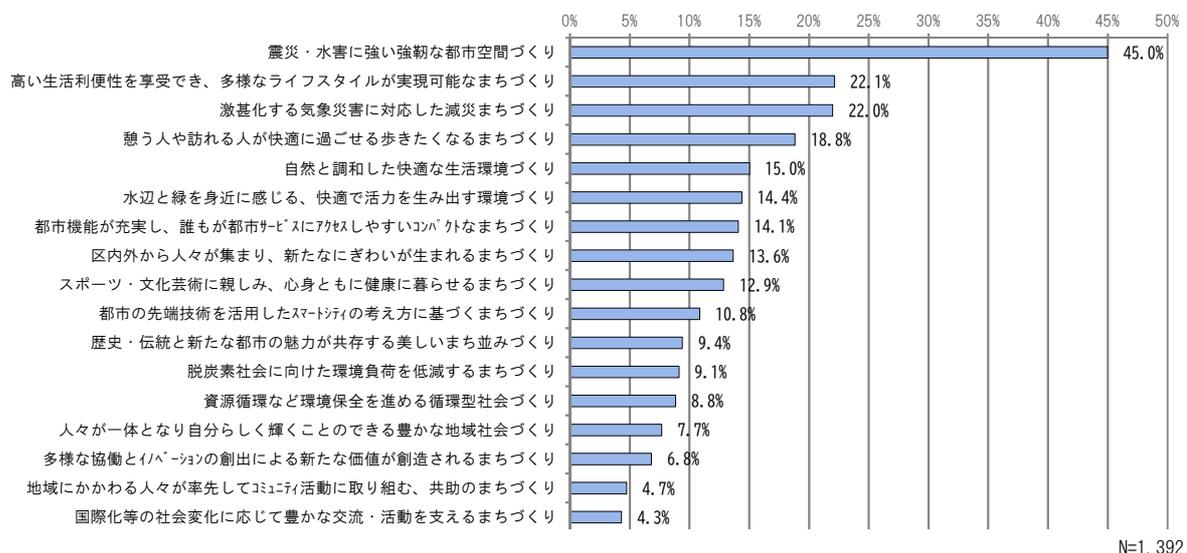
東陽町駅周辺



(仮称)千石駅周辺



住吉駅周辺



5) 地下鉄8号線（有楽町線）延伸に伴う効果・影響を最大限活かすため、まちづくりに おいて検討すべき事項、取り組むべき事項等

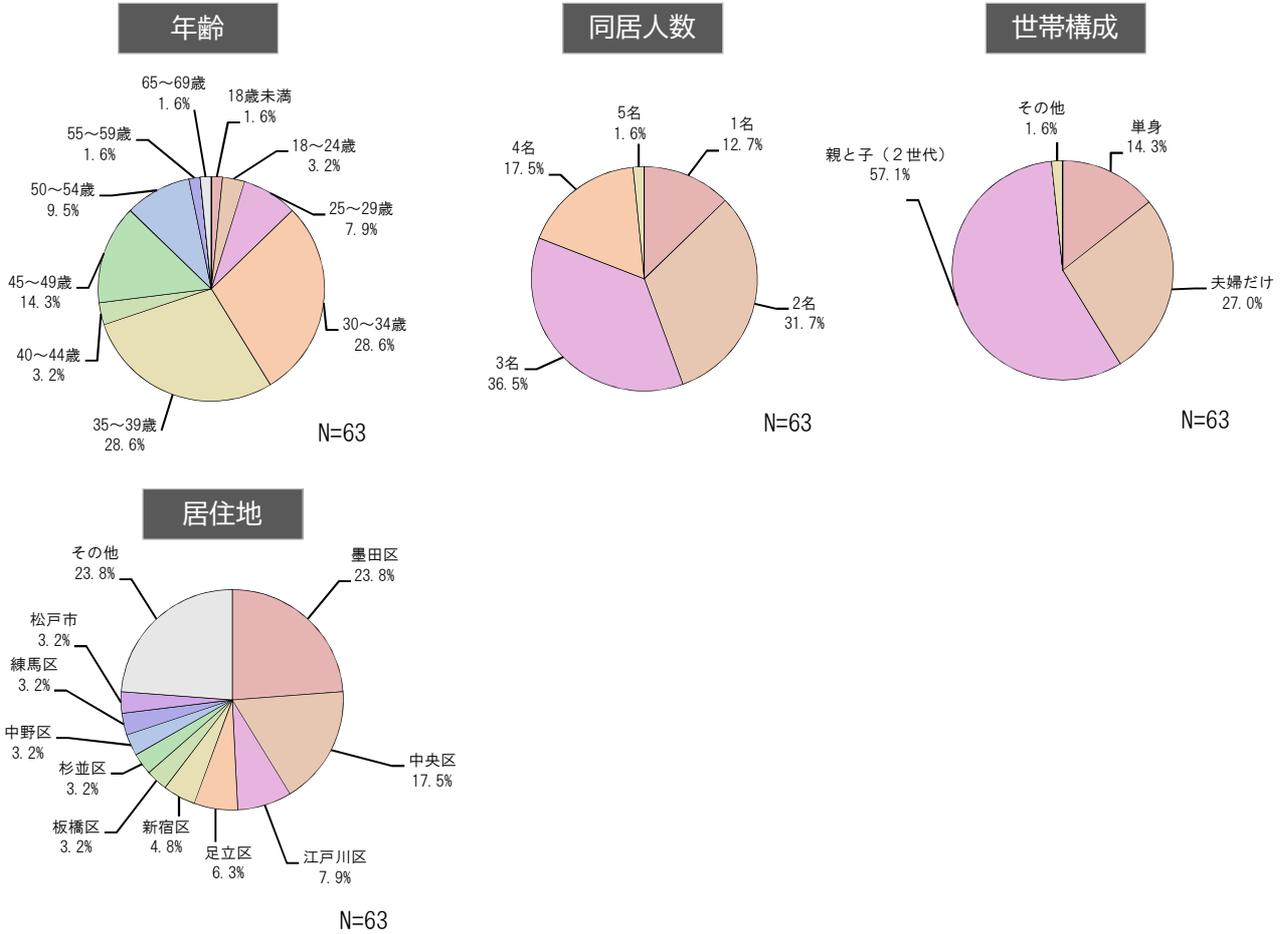
- 紙面アンケートでは「バス」に関する意見が最も多く、「道路整備」、「駐輪場」の交通に関する回答が上位に挙げられたが、WEBアンケートでは「商業施設」に関する意見が最も多い回答であった。

意見区分	件数
商業施設について	47
バスについて	32
道路整備について	31
駅周辺の開発について	27
災害について	20
バリアフリーについて	20
地域の特徴について	15
利便性について	15
災害（水害）について	15
駐輪場について	14
飲食店について	14
混雑について	13
子育てについて	12
駅の出入口について	12
マンションについて	10
公園について	10
下町について	9
景観について	9
高齢者について	9
水辺について	9

① 集計結果（WEB アンケート区外回答）

1) 回答者の属性

●居住地は「墨田区」が最も多く、次いで「中央区」、「江戸川区」となっている。

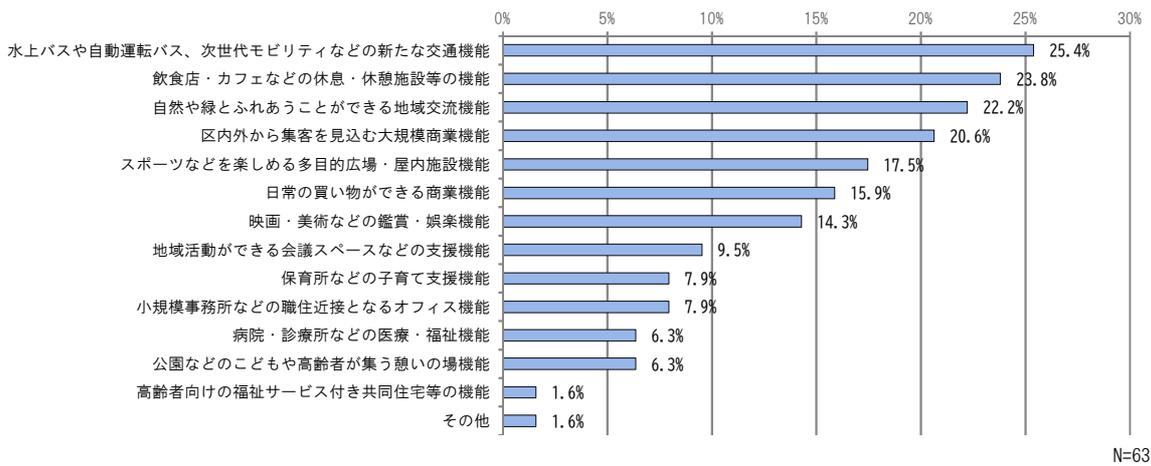


2) 地域の拠点としてあるとよいと思う新たな機能

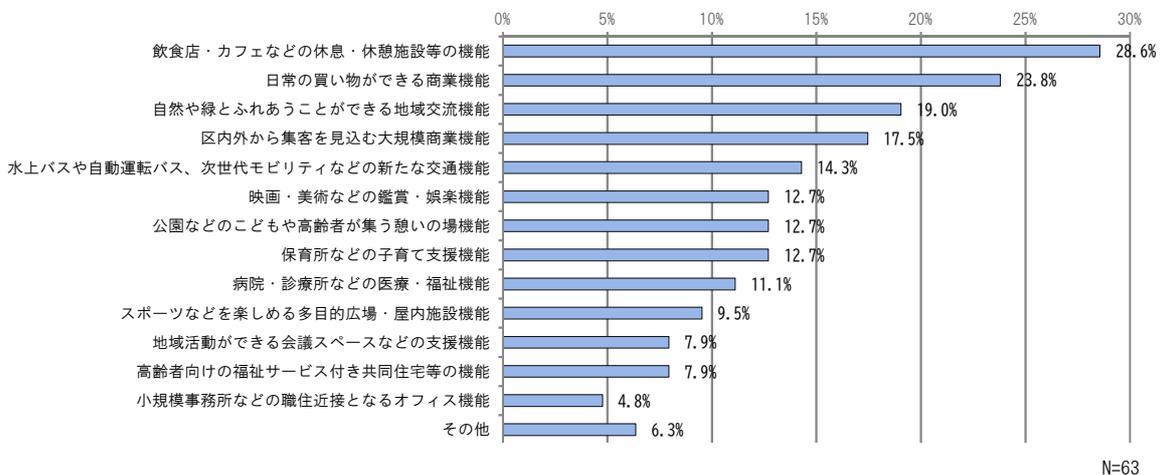
●紙面アンケートと同様、WEB アンケートにおいても、豊洲駅周辺では「水上バスや自動運転バス、次世代モビリティなどの新たな交通機能」、その他の駅周辺では「飲食店・カフェなどの休息・休憩施設等の機能」の回答が最も多かった。

各駅周辺

豊洲駅周辺

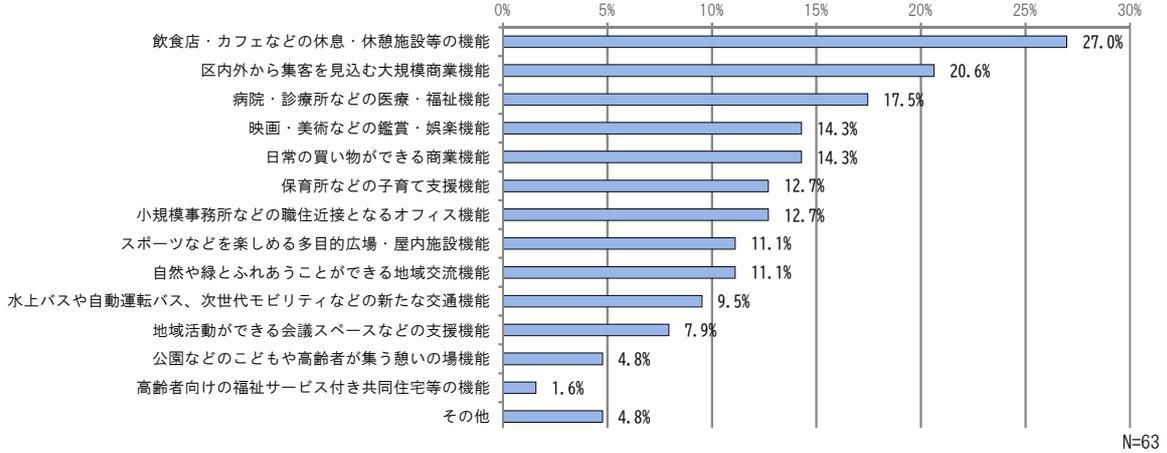


(仮称) 枝川駅周辺

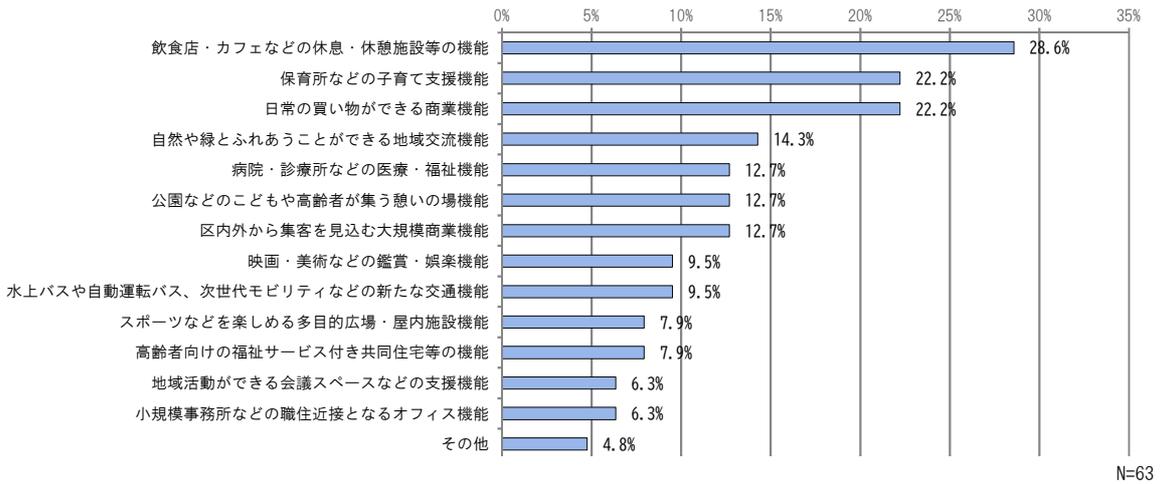


各駅周辺

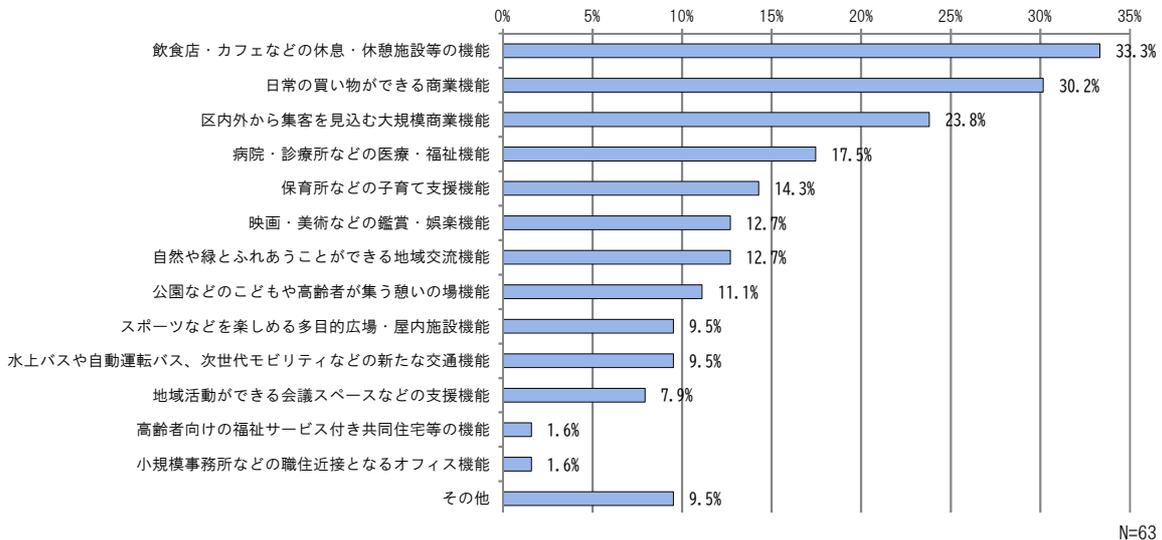
東陽町駅周辺



(仮称)千石駅周辺



住吉駅周辺

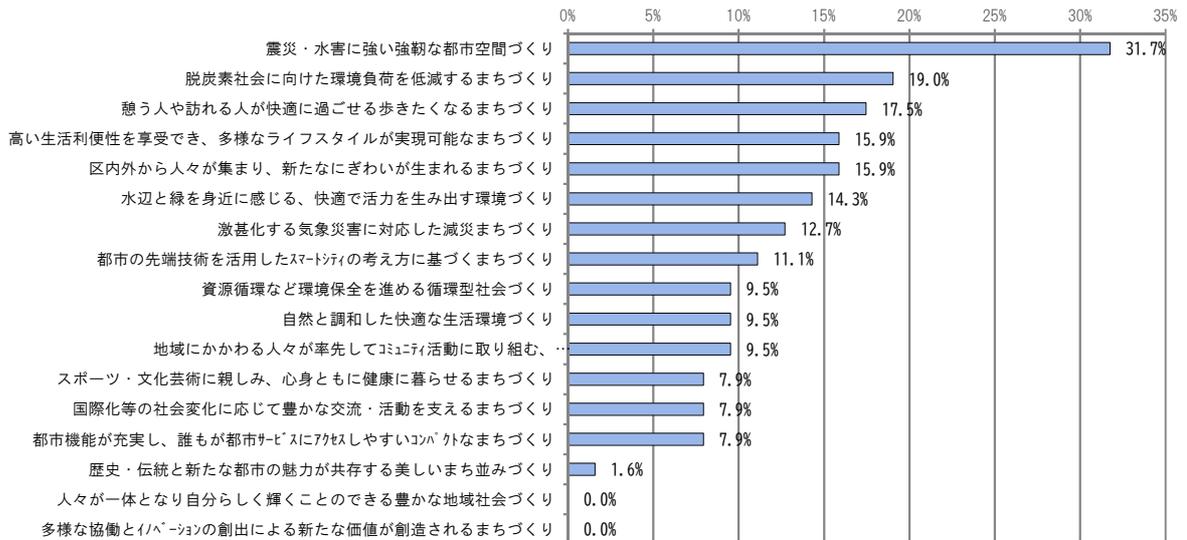


2) 地下鉄8号線の延伸に伴う駅周辺のまちづくりで特に重要と考える取組

●紙面アンケートと同様、WEB アンケートにおいても、いずれの駅周辺でも「震災・水害に強い強靱な都市空間づくり」の回答が最も多かった。

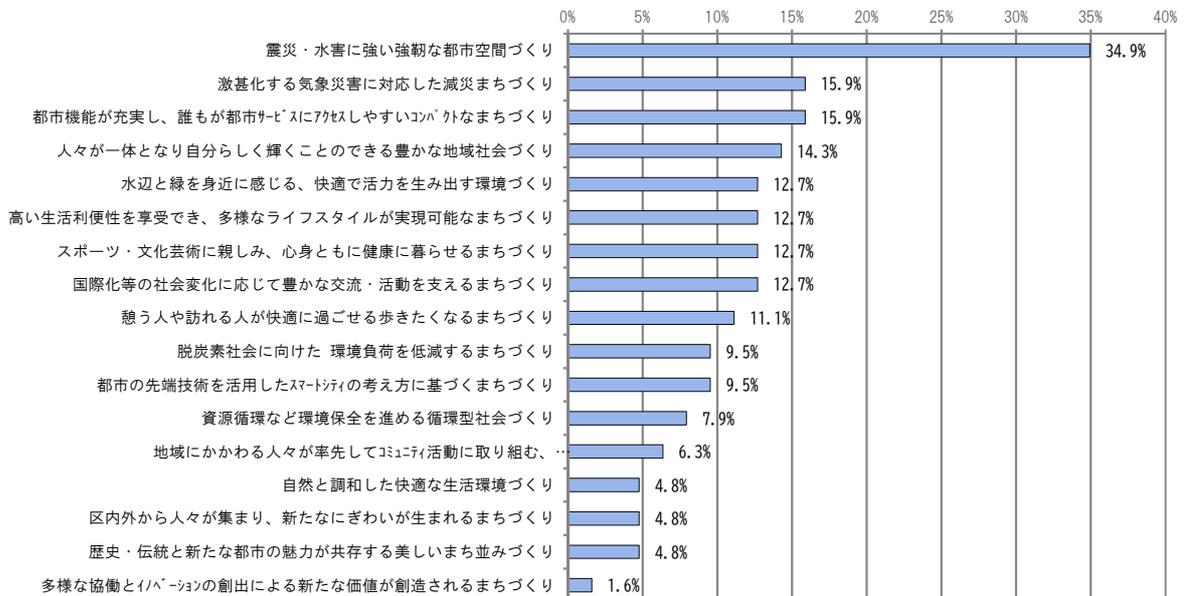
各駅周辺

豊洲駅周辺



N=63

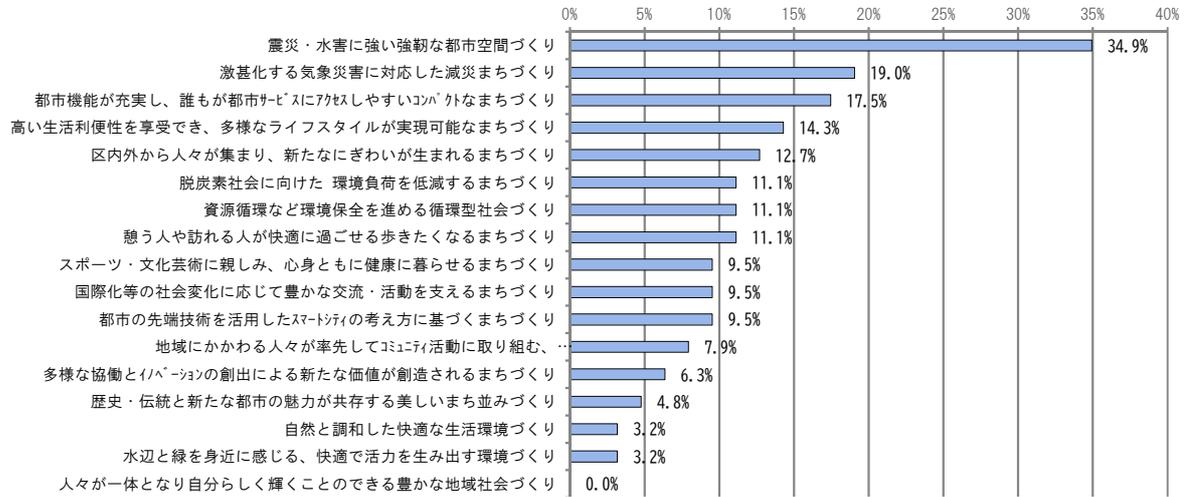
(仮称) 枝川駅周辺



N=63

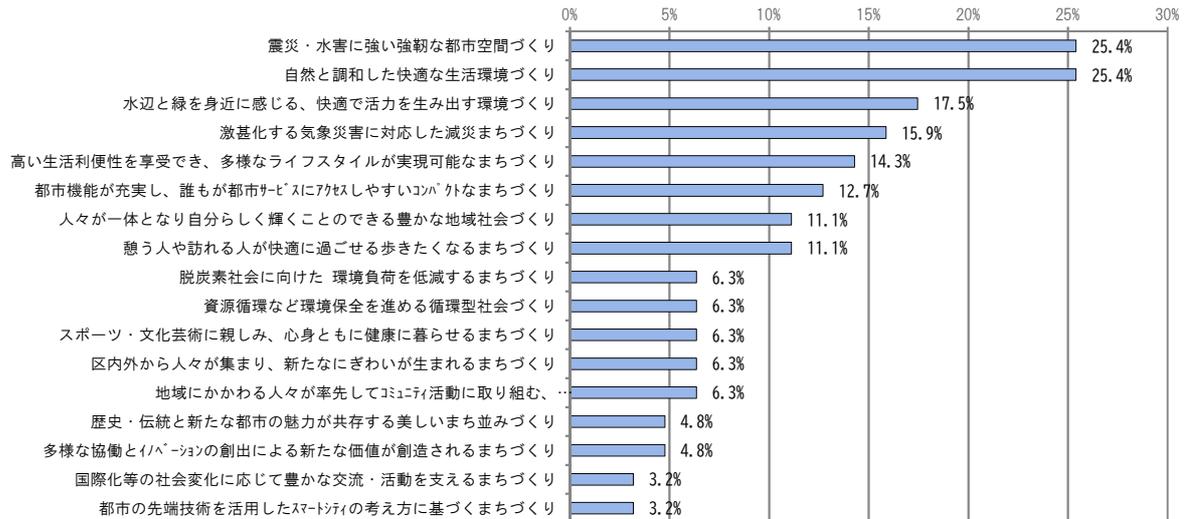
各駅周辺

東陽町駅周辺



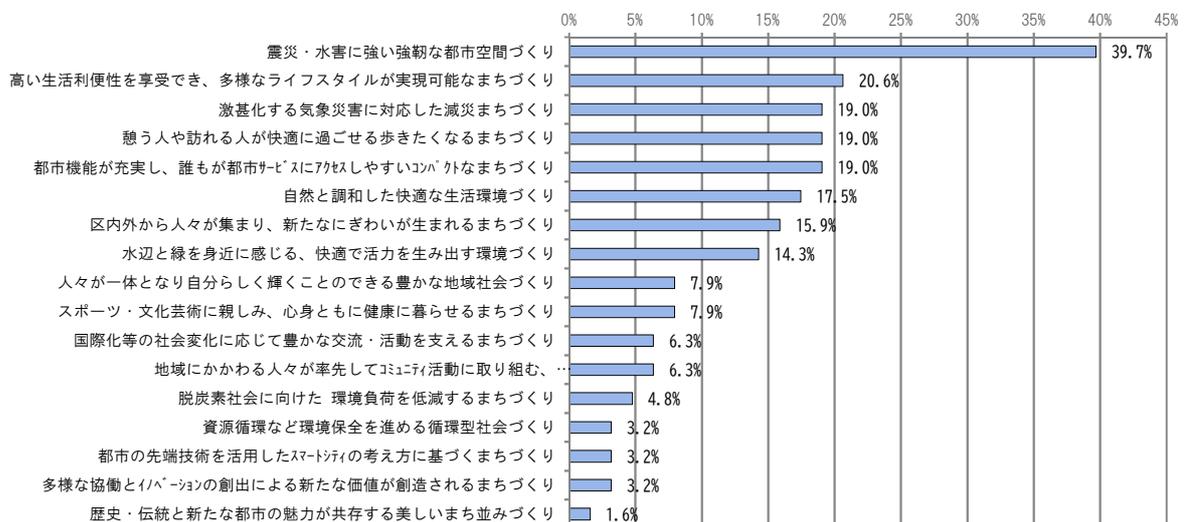
N=63

(仮称) 千石駅周辺



N=63

住吉駅周辺



N=63

(2) ワークショップ

① 委員の構成

- 原則として各駅周辺を構成する13町を軸とし、公募を中心に選出された各駅10名（うち、各駅1名は芝浦工業大学の学生）

② 実施概要

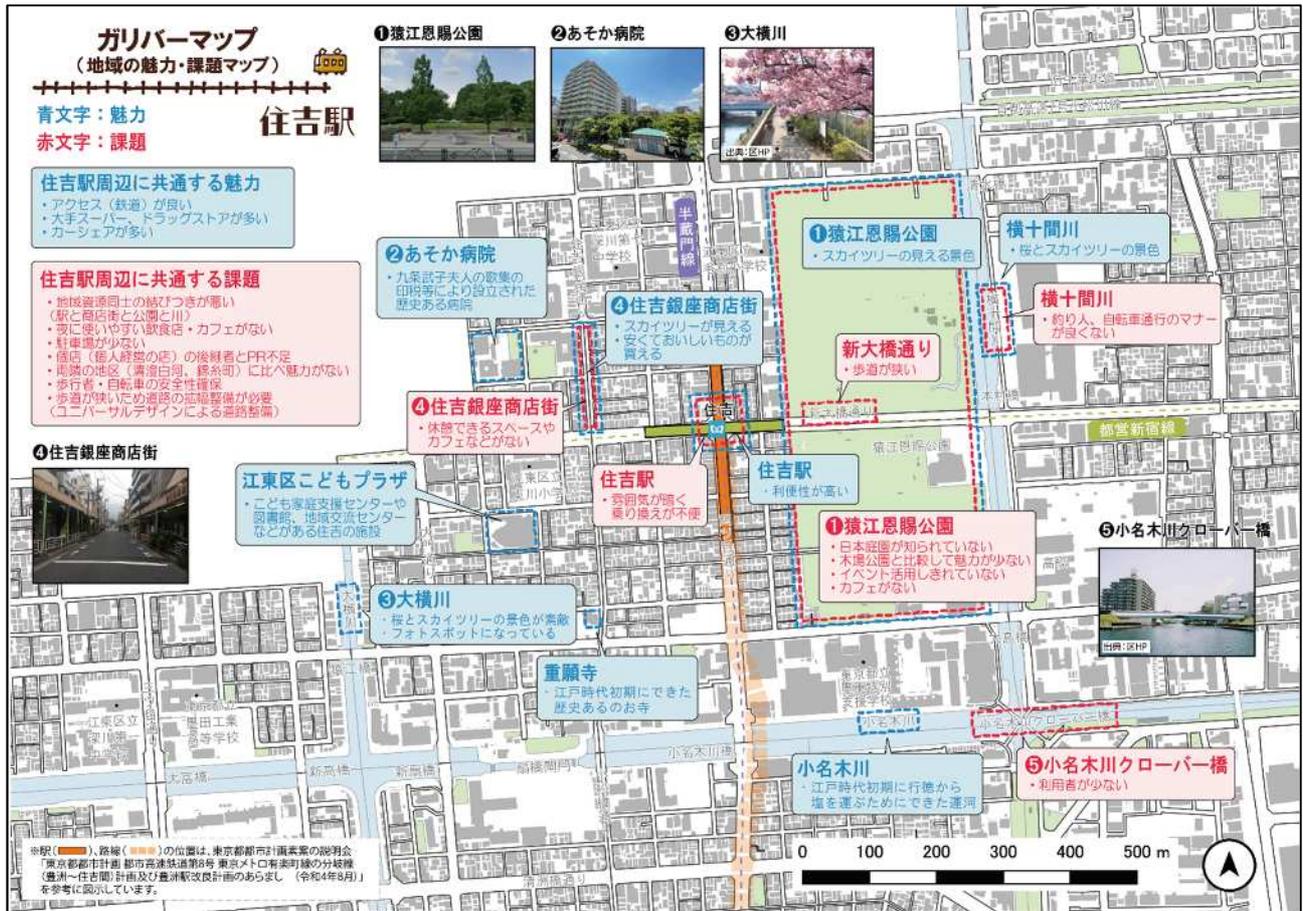
第1回	日時	令和4年7月23日（土）	場所	豊洲IHIビル
	出席者	ワークショップ委員50名（対面22名 オンライン15名 書面13名） 芝浦工業大学 志村教授 桑田教授 佐藤教授 事務局：江東区地下鉄8号線事業推進課 事務局支援：ランドブレイン（株）		
	テーマ	『まちづくりに期待することや思い』 『各駅周辺のまちの魅力や課題』		
第2回	日時	令和4年8月27日（土）	場所	区立東川小学校
	出席者	ワークショップ委員50名（対面34名 オンライン11名 書面5名） 芝浦工業大学 志村教授 桑田教授 佐藤教授 事務局：江東区地下鉄8号線事業推進課 事務局支援：ランドブレイン（株）		
	テーマ	『地下鉄延伸後のまちづくりにおいて重要なテーマ』 『各駅周辺で目指す姿』		
第3回	日時	令和4年9月10日（土）	場所	ホテルイースト21東京
	出席者	ワークショップ委員50名（対面39名 オンライン6名 書面5名） 芝浦工業大学 志村教授 桑田教授 佐藤教授 事務局：江東区地下鉄8号線事業推進課 事務局支援：ランドブレイン（株）		
	テーマ	『各駅周辺で目指す姿実現に向けた取り組み』 『各駅周辺の目指す姿から考える沿線全体で目指す姿』		



■ガリバーマップ（地域の魅力・課題マップ）







1) 第1回ワークショップにおける主な意見

豊洲駅周辺

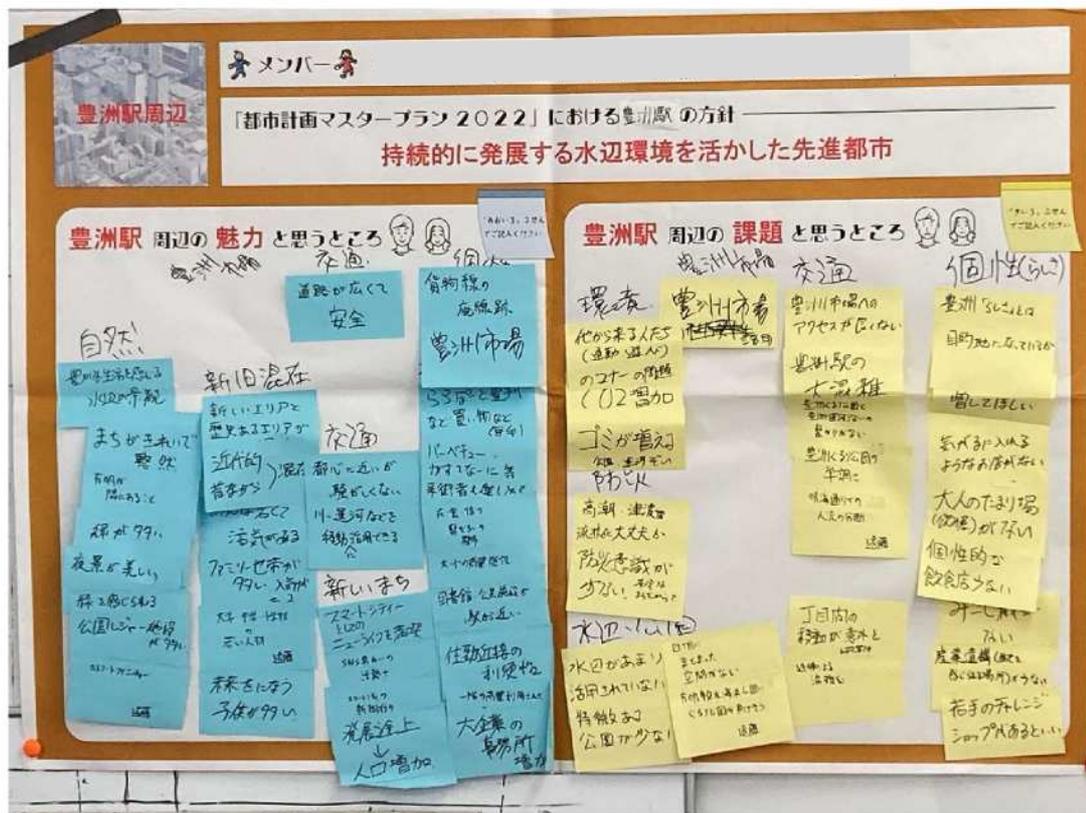
■グループワークでの意見のまとめ

- ・まちが新しくファミリー層、子どもが多く、水辺・大きな公園もあり、店舗が充実、都心へのアクセスも良いことが魅力として挙げられたが、来街者のマナーの悪さ、水辺・公園、豊洲市場の魅力が活かしきれず地域内交通の不便さが課題として挙げられた。



■グループワークでの個別の意見（魅力と課題）

- ・豊洲駅の魅力として、まちが新しく綺麗でファミリー世帯や若い人が多く活気のあるところ、公園、緑の多さ、水辺が近いこと、夜景等の自然を感じることができるところ、都心へのアクセスの良さ、店舗、公共施設等が充実していることが挙げられた。
- ・課題として、店舗は充実しているがチェーン店が多く気軽に入れる飲食店や個性的な店舗がないこと、魅力である公園、水辺、ここにしかない豊洲市場が活かされていないこと、水辺の近さから防災面への不安、地域内の交通が不便であることが挙げられた。
- ・その他、来街者のマナーの悪さ、無機質なまちになりつつあり「オンリーワンのまちづくり」が必要であること、女性でも入りやすいこじやれた個性的な店舗、貨物線の廃線跡等の産業遺構の活用が必要であること等の意見が挙げられた。



(仮称) 枝川駅周辺

(※ワークショップ開催時点では新駅①)

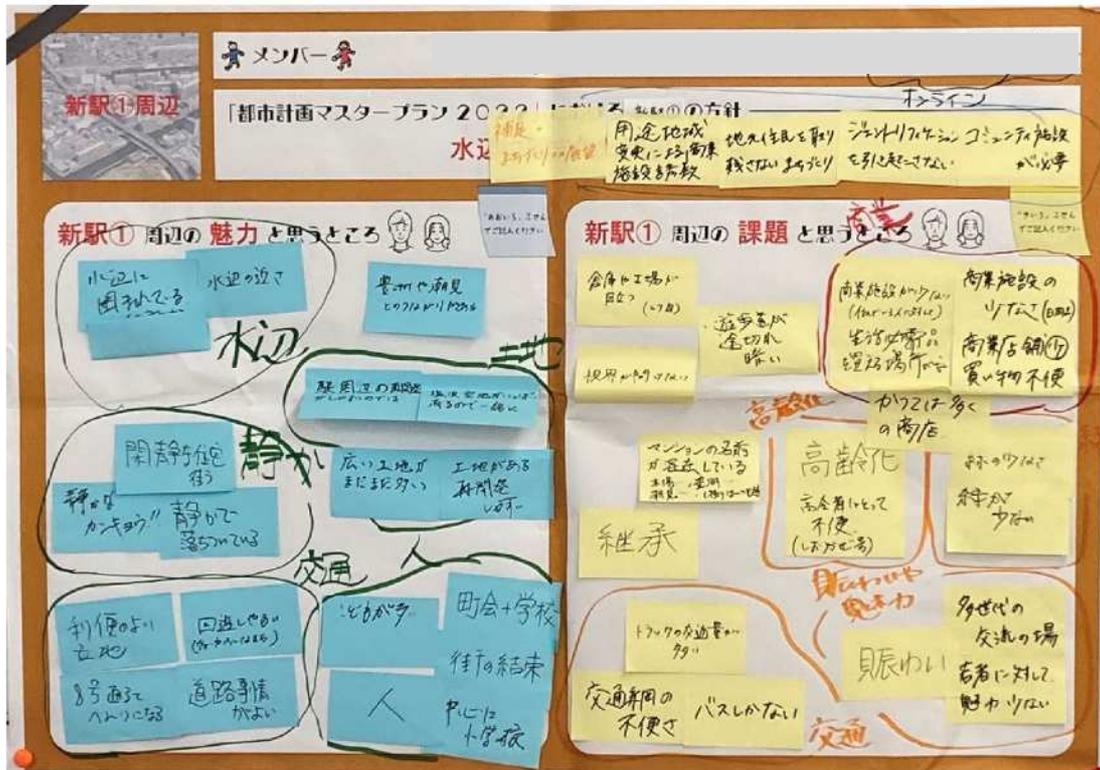
■グループワークでの意見のまとめ

- ・水辺に近い静かな住環境で空地があり今後の開発に期待が持てること、住んでいる人そのものが魅力として挙げられた一方で、交通利便性の低さや商業施設の少なさなど、魅力の裏返しとなる課題が挙げられた。



■グループワークでの個別の意見(魅力と課題)

- ・新駅①の魅力として運河に囲まれた水辺の近さ、道路事情が良く交通利便性が高いわりに閑静な住宅街として成立しているところ、中心にある小学校や町会等人と人の結束の強さ、今後の開発に期待を持つことができるまとまった土地が多いといった意見が挙げられた。
- ・課題としては商業施設の少なさや減ってきていること、交通利便性は高い反面、バス、トラックの交通量の多さから不便さを感じていること、高齢化の進展と若い人が魅力を感じる場所がなく世代間の交流がなく賑わいが不足していることが挙げられた。
- ・その他、豊洲に隣接している立地から原宿に対しての裏原宿のようなポジションや潮見と一体的に検討していくことが必要という意見やエリアブランディングを明確にすることの必要性や舟運を活用した取組みが必要との意見が挙げられた。



東陽町駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

- ・都心へのアクセスの良さ、様々な施設・機能（公共施設、スーパー、郵便局、等）が充実し、コミュニティが活発なところが魅力として挙げられたが、区内の南北方向への移動、特色の乏しさ、コミュニティへの入りづらい等が課題として挙げられた。



■グループワークでの個別の意見（魅力と課題）

- ・複数の町会や商店会がありそれぞれが協力しあうことができるコミュニティが活発であること、都心への交通アクセスの良さの他お身体の不自由な方、高齢者の方の移動に際して路線バス網が充実していること、図書館等の公共施設の集積やスーパー、銀行等の施設が充実していることが魅力であるとの意見が挙げられていた。
- ・課題としてはエリアブランディングが欠如しており、特色のなさチェーン店の多さに個店（個人が営むお店）の魅力が埋もれてしまっており東陽町らしさがなく磨けば光る魅力を活かしきれていないこと、駐車場、駐輪場の少なさ、バス停がまとまっておらず使いにくさがある等の意見が挙げられた。
- ・その他、計画的なまちづくりが進んでおらず駅前が雑多な印象を与えていることや来街者や転入者がコミュニティに参加しづらいことは課題であるが防犯面では心強さを感じていることは魅力として挙げられ、東陽町駅と東京イースト 21 までの距離が分断されている印象を与えている。



(仮称) 千石駅周辺

(※ワークショップ開催時点では新駅②)

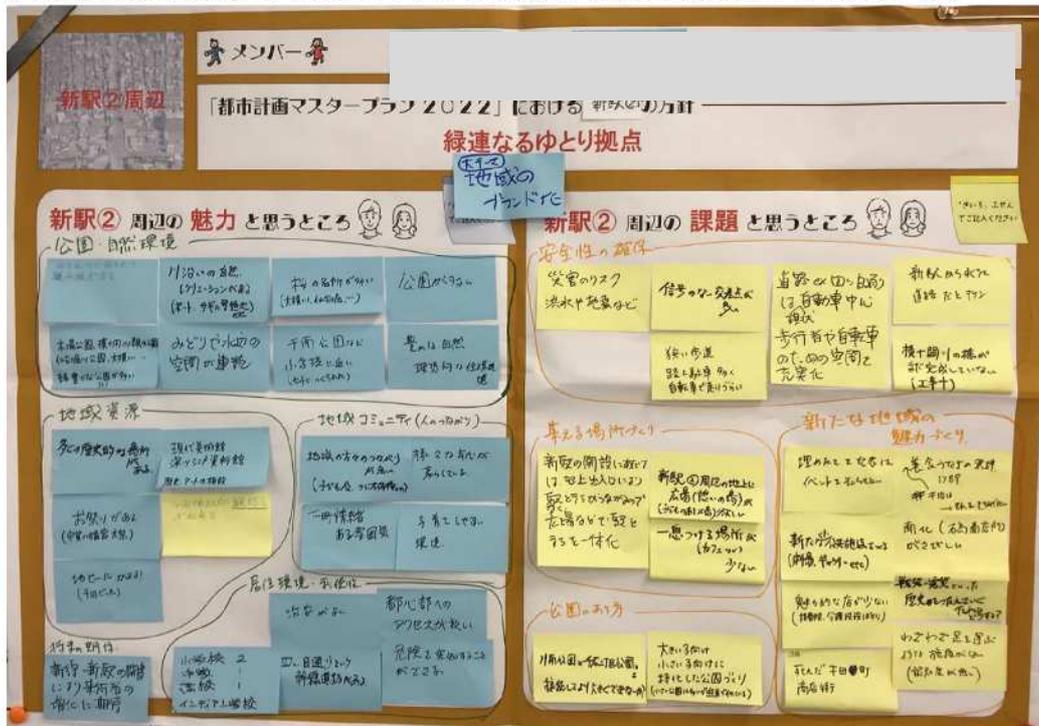
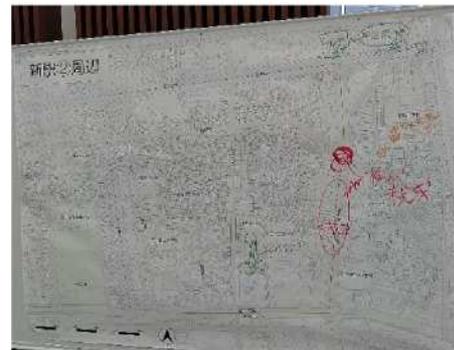
■グループワークでの意見のまとめ

- ・文教施設、自然に囲まれた住宅街が魅力という意見の他、ウナギの養殖の発祥の地や桜の名所、地ビールづくり等の地域資源があるが、それらのPRができていないこと、一息つける場所が少ないこと歩行者の安全確保が課題として挙げられた。



■グループワークでの個別の意見 (魅力と課題)

- ・新駅②の魅力としては横十間川親水公園や仙台堀川公園といった水辺や木場公園の緑以外にも桜の名所が多いといった自然環境に関する意見が多く挙げられた。
- ・課題としては災害のリスク、歩道の狭さ、自動車中心となっている道路、信号のない交差点等の交通面の他、ランドマークの欠如や商店街の店舗、個店（個人が営むお店）の魅力にかける等が挙げられた。
- ・その他、歴史を感じる場所が多く、うなぎの養殖の発祥地や地ビール（千田ビール）、宇賀八幡宮大祭等魅力的なものもあるがアピール不足であまり知られていないことが課題として挙げられた。また、古くは江戸時代に徳川家の屋敷跡であったことや戦後の帝都復興事業でまちが概成してきた等まちの成立ちや地域のつながりの強さが魅力との意見も挙げられていた。



住吉駅周辺

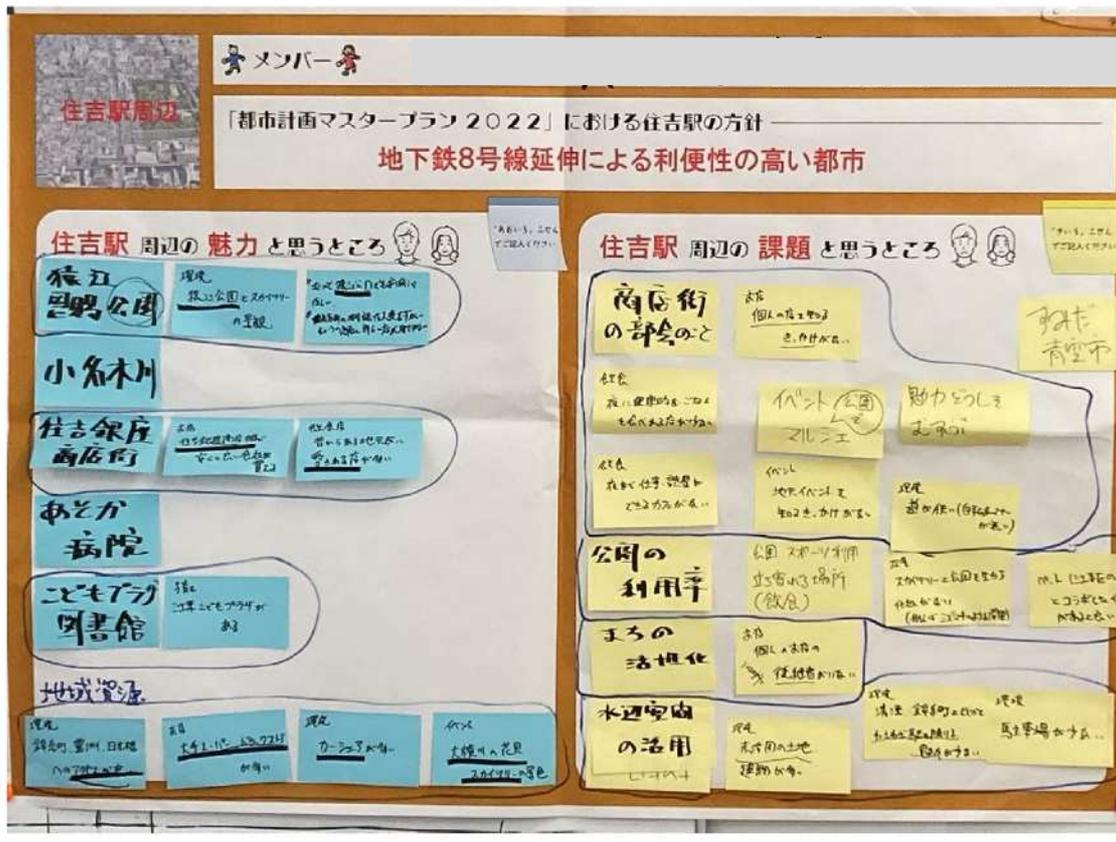
■グループワークでの意見のまとめ

- ・商店街、公園や水辺が魅力という意見が多く挙げられた。課題としては道路の狭さ、猿江恩賜公園の活用が不十分で公園内での飲食の提供やイベント開催等楽しめる場が少ないとの意見が挙げられた。



■グループワークでの個別の意見（魅力と課題）

- ・住吉駅の魅力として猿江公園や水辺、住吉銀座といった地域資源の他にあそか病院やこどもプラザ図書館といった具体的な施設名を挙げられる方も見受けられた。
- ・課題としては道幅の狭さや個店（個人が営むお店）について知る機会がなく、後継者も居ない等の意見が挙げられた他、魅力である猿江公園でのイベント開催がなされていないことが挙げられた。
- ・その他、スカイツリー至近の地域からスカイツリーを望む景観に魅力はあるが活かしきれていないことが課題として挙げられた。また、清澄白河と錦糸町という隣接駅や猿江恩賜公園と木場公園と比較した場合に魅力が劣るといった意見が挙げられた。



2) 第2回ワークショップにおける主な意見

豊洲駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ①：地下鉄延伸後のまちづくりの重要なテーマ

- ・水辺空間、豊洲市場、4丁目アパート跡地の活用、「らしさ」として何を打ち出していくか、駅の利便性、住吉以北（押上）との地域間連携、来街者、災害に強い安全・安心というキーワードが挙げられた。
- ・豊洲には神輿はあるが、その伝統が活用されていないとの意見が挙げられた。
- ・水辺空間はあるが照明やベンチ等の周辺環境の整備ができておらず、水辺の活用方策として地域内の東西方向を分断する陸路（晴海通り）を補完する形で舟運の活用という意見が挙げられた。

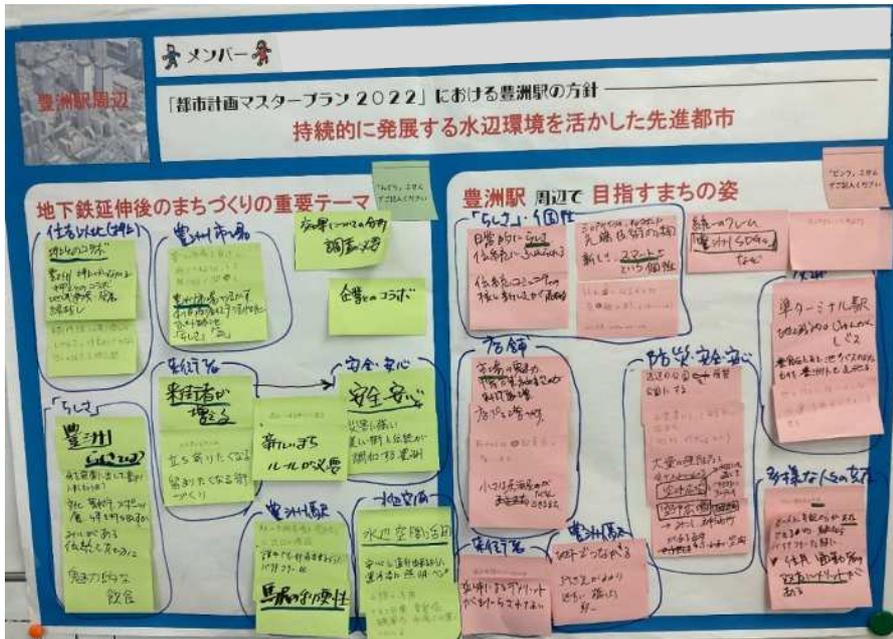


テーマ②：豊洲駅周辺で目指すまちの姿

- ・日常的に「らしさ」に触れることができるまち、地域内の循環バスや舟運によりつながるまち、豊洲市場、魅力的な店舗があるまち、誰もが安全安心に過ごせるまちという意見が挙げられた。
- ・豊洲駅についてもまちなかと地下でつながるまち、豊洲駅が準ターミナル駅として地域内の循環バスや舟運との乗換えが可能となったまちという意見が挙げられた。

■グループワークでの個別の意見

- ・地下鉄延伸の効果について調査、分析を行い具体化につなげる必要があるとの意見が挙げられた。
- ・新しいまちであることから来街者やまちなかでのスケートボード利用者等によりマナーが守られていないためルールづくりが必要との意見が挙げられた。
- ・現在、豊洲にオフィスを構える企業とのコラボしたまちづくりが必要との意見が挙げられた。
- ・「豊洲版 SDGs」等の統一した枠組みのもとで住民がまちづくりに参画し、地下鉄延伸により住民にデメリットがもたらされないことがないまちとの意見も挙げられた。



(仮称)千石駅周辺

(※ワークショップ開催時点では新駅②)

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ①：地下鉄延伸後のまちづくりの重要なテーマ

- ・暮らしやすさ、安全安心、新しいものと古いものの融合(ネオ下町)、自然といったキーワードが出された。
- ・特に四ツ目通りの歩道は幅員が狭く、車中心から人中心にユニバーサルデザインを用いて再整備を行う必要があるとの意見が挙げられた。
- ・震災、戦災を歴史として継承し、新しいものと融合させるという意見が挙げられた。

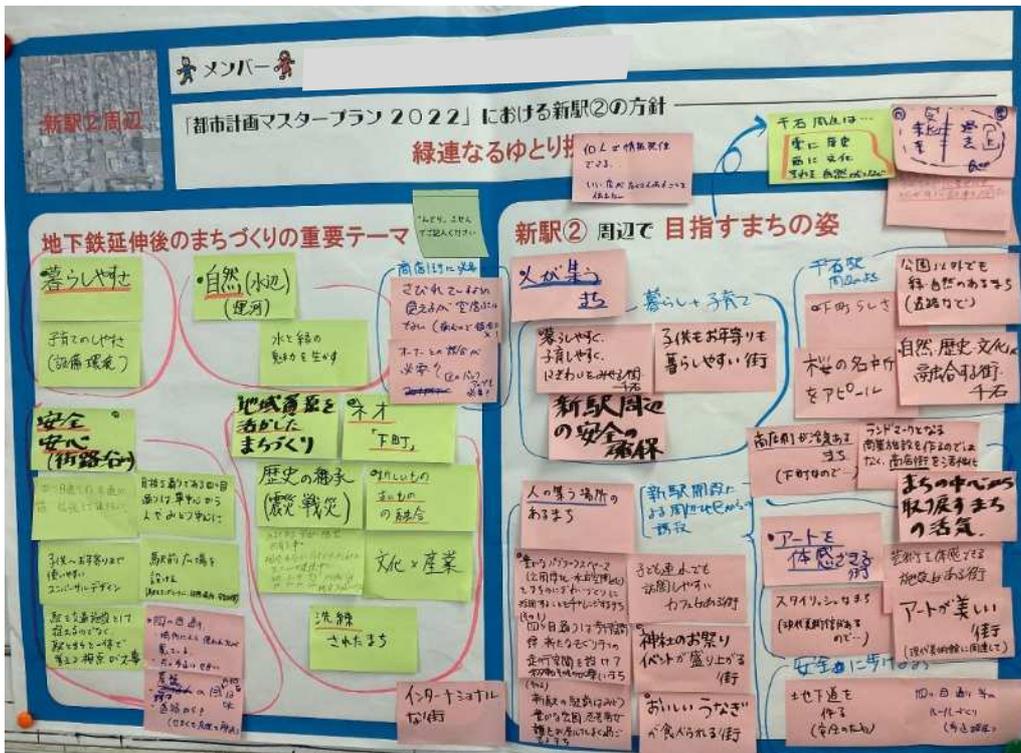


テーマ②：新駅②周辺で目指すまちの姿

- ・人が集うまち(暮らす・地区外から訪れる)、こどもからお年寄りまでが暮らせるまち、商店街を中心とした活気のあるまち、自然・歴史・文化が融合するまち、アート・芸術を体感できるまちといった意見が出された。
- ・具体的なアイデアとして、新駅の周辺に憩いの空間を整備し、ウナギをキャラクターとして盛り上げたい、四ツ目通りの歩道拡幅により、歩行者の安全確保を行うという意見が挙げられた。

■グループワークでの個別の意見

- ・商店街を活性化するためには、オーナーとの話し合い、行政のバックアップが必要という具体的な実現方策に言及する意見も出された。
- ・新駅を境に西側に文化と未来、東側には歴史と過去という形で対比させ、その相反するものを自然がつなぐといった具体の将来像も意見として挙げられた。



住吉駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ①：地下鉄延伸後のまちづくりの重要なテーマ

- ・ 防災、水辺空間、交流、ユニバーサルデザイン、商店街の活性化、暮らし方、利便性というキーワードが出された。
- ・ 水辺空間については東陽町まで「つなぐ」ことが必要との意見が挙げられた。
- ・ 商店街は現状の魅力を伸ばすこと、新しいものをどう取り入れるかという意見が挙げられた。
- ・ 道路が狭いため、ユニバーサルデザインによる道路整備と拡幅が必要という意見が挙げられた



テーマ②：住吉駅周辺で目指すまちの姿

- ・ 横十間川と商店街がつながったまち、公園と川がつながったまち、個々の施設（猿江恩賜公園、商店街、横十間川等）ではなく様々な施設が一体化したまちといった意見が挙げられた。
- ・ 猿江恩賜公園内へのカフェ等の整備や、横十間川とのつながりを持たせるためには、まずは一か所でも整備が必要との意見が挙げられていた。
- ・ 全体として「駅、商店街、公園、川がつながり一体となったまち住吉」という像が考えられる。

■グループワークでの個別の意見

- ・ 住吉駅の地下空間等のスペースを活用し「住吉の魅力」を伝えることが必要との意見もあった。
- ・ 猿江恩賜公園が都立公園であることから、東京都の職員にオブザーバーとして参加してもらうべきではないかとの意見が挙げられていた。
- ・ 目指す姿実現に向けた、具体的な取組みを検討していきたいとの意見が挙がっていた。



3) 第3回ワークショップにおける主な意見

豊洲駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ②：豊洲駅周辺で目指す姿から考える沿線全体で目指す姿

- ・豊洲駅の考える沿線全体で指す姿は『交通・人・伝統と文化がコンパクトにつながる個性豊かなまち』となった。
- ・沿線全体で目指す姿を考えるうえでのキーワードとして、「色々な交通手段」「既存の財産を活かす」「実証実験」「小さな個性なお店」「豊洲と枝川との連携」といったこと等が挙げられた。



テーマ②の後、豊洲駅を目指す姿について再度整理を行った。

- ・豊洲駅を目指す姿としては『安全安心で回遊性が高く伝統と文化を活かした人と人がつながる個性豊かでチャレンジできるまち』となった。
- ・豊洲駅を目指す姿を考えるうえで重要となるキーワードとして、「安全安心」「コミュニケーション」「既存施設を活かす」「空中庭園」「地下のストリート化」「回遊性」「豊洲に来る祭り」「伝統と文化」「人と地域の流れ」といった意見が挙げられた。

テーマ①：豊洲駅周辺で目指す姿実現に向けた取り組み

- ・「交通」に関しては、豊洲駅を中心として、舟運 循環バス、次世代モビリティ等さまざまな交通手段の活用により、区の南北と豊洲の地区内がつながる効果が生まれるとの意見が挙げられた。
- ・「水辺・緑」に関しては、水辺と緑を活かすMAPの作成、SNSを利用した情報発信、観光窓口の設置、水辺の規制緩和等により、人を集めるイベントが可能となるという意見が挙げられた。
- ・「住環境」については、商店街とボランティアですでに取り組んでいる花壇整備の拡充、個店（個人が営むお店）経営者による清掃やゴミ箱の設置により、きれいで暮らしやすくなるという効果が生まれるという意見が挙げられた。
- ・「らしさ・個性」については、先端技術を活かすことや、豊洲市場の活用方法についての検討を継続させることにより、更なる魅力アップとチャレンジできるまちになるという意見が挙げられた。
- ・「来街者」については、魅力的なイベント開催や先進的な取り組み（例えば押上とのコラボ）によって多様な人が訪れ、住民と来街者双方にメリットが生まれることや、防災ネットワークの構築により、避難がしやすい防災に強いまちが実現するという意見が挙げられた。



(仮称) 枝川駅周辺

(※ワークショップ開催時点では新駅①)

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ②：新駅①周辺で目指す姿から考える沿線全体で目指す姿

- ・新駅①の考える沿線全体での目指す姿は『こうとう湾（ワン）ダーラインー下町と臨海部をつなぐー』となった。
- ・沿線全体で目指す姿を考えるうえでのキーワードとして、「つながり・メリハリ」「特徴・個性」「江東水彩ライン」「臨海副都心」「東京下町線」といったことが挙げられた。



テーマ②の後、新駅①の目指す姿について再度整理を行った。

- ・新駅①の目指す姿としては『地域に根ざした「活気」と「静けさ」が調和したひとの暮らしが見える水辺と緑のまち』となった。
- ・新駅①目指す姿を考えるうえで重要となるキーワードとして、「人が注める空間づくり」「ショップが点在した小さなまち」「今のまちの良さ」「新たに生まれるもの」といったことが挙げられた。

テーマ①：新駅①周辺で目指す姿実現に向けた取り組み

- ・「活気・にぎわい」の創出のため、枝川と潮見が一体となった祭り等のイベントの開催、SNSの活用等による情報発信、新駅①と潮見駅での地下鉄とJRの乗換による、歩かせる仕掛けの創出、人のつながりを活かす等の取り組みを行う。その結果、新しい文化の創出、枝川の知名度向上、まちの担い手創出、地域間の連携といった成果が生まれるとの意見が挙げられた。
- ・「静けさのある生活」を創出するために、クリーン活動のPR、若い世代と一緒にアイデア出しを行う、首都高高架下の閉塞感の改善といった取組を行う。その結果、住みやすさの向上、若者世代の定着等、ピンチをチャンスに変えるような効果が生まれるとの意見が挙げられた。
- ・「水辺・緑・環境」について、運河により地域間をつなぐ水上交通の導入、運河沿いの並木道の整備等水辺環境の充実、マリンレジャー企業とタイアップした運河や公園をつなぐ、SUP（立ち漕ぎボード）やジェットスキー、コミュニティガーデンの創出等の取り組みを行う。その結果、交通利便性の向上、水辺の更なる魅力向上、新たなレジャー・観光資源の創出といった効果が生まれるとの意見が挙げられた。



東陽町駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ②：東陽町駅周辺で目指す姿から考える沿線全体で目指す姿

- ・東陽町駅の考える沿線全体での目指す姿は『江東区が再評価される』となった。
- ・沿線全体で目指す姿を考えるうえで外せないキーワードとして、「水辺・自然・緑」「利便性の向上」「暮らしやすさの向上」「個性、らしさを活かす」といったことが挙げられた。
- ・沿線全体で目指す姿を実現するために、「各駅の個性を活かす」「水辺・運河でつながる」「生活・環境・利便性を向上させる」といった意見が挙げられた。

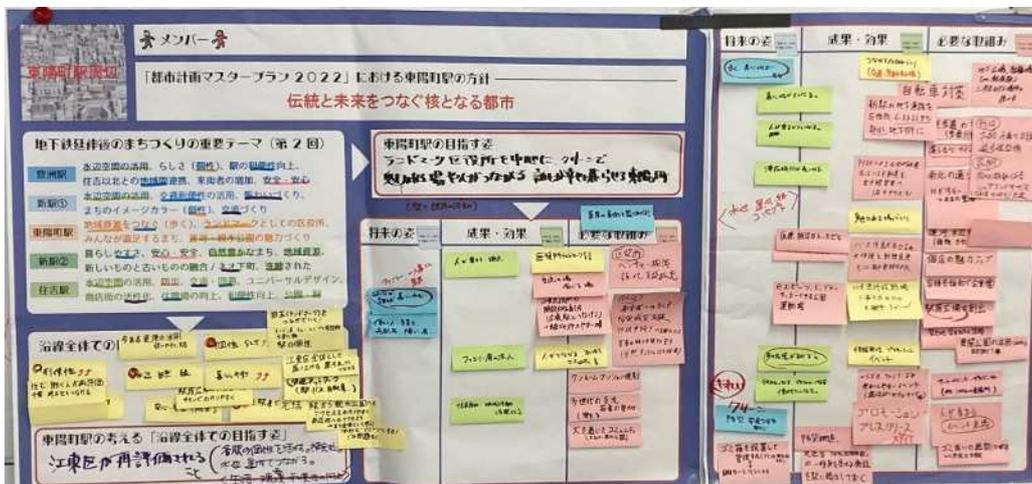


テーマ②の後、東陽町駅で目指す姿について再度整理を行った。

- ・東陽町駅で目指す姿としては『ランドマークである区役所を中心にクリーンで魅力ある場や、人がつながる誰もが幸せに暮らせる東陽町』となった。

テーマ①：東陽町駅周辺で目指す姿実現に向けた取り組み

- ・「ファミリー、一人暮らし、若者の誰もが暮らしやすいまち」を実現するために、犬を通じたコミュニティの醸成、若者が参加しやすい多世代の交流、区役所の解放的なあり方として、交流の場や食べる場として活用する等により、人が集う場の創出につながるとの意見が挙げられた。
- ・心地良い歩行環境を創出するために、自転車の通行対策、四ツ目通りの南北移動の改善、個店（個人が営むお店）の魅力アップとPR等を行う。その結果、人が集まり、集まった人の滞在時間が長くなるという成果が得られるとの意見が挙げられた。
- ・eスポーツ（コンピューターゲームによる競技）やドッグランがある公園を整備し、そこでイベントを開催し、プロモーションすること等により、知名度の上昇につなげることが必要との意見が挙げられた。
- ・「クリーンで防災性が高く、安全なまち」実現のため、駅に防災拠点となる施設の案内を掲示する、自分たちで管理するゴミ箱を設置し、ゴミ拾いを習慣づける等の取り組みを行う。その結果、行きたくなる、働きたくなる、住みたくなるまちの創出という成果を生み出すとの意見が挙げられた。



(仮称) 千石駅周辺

(※ワークショップ開催時点では新駅②)

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ①：新駅②周辺で目指す姿から考える沿線全体で目指す姿

- ・新駅②の考える沿線全体での目指す姿は『安全安心で、歴史を未来につなげ、生活の中心としてにぎわいのあるまち』となった。
- ・沿線全体で目指す姿を考えるうえで外せないキーワードとして、「安全安心」「地域資源」「古いものと新しいものの融合」「歴史」「活性化」「暮らしやすさ」「すべての世代」といったことが挙げられた。



テーマ②の後、新駅②の目指す姿について再度整理を行った。

- ・新駅②の目指す姿としては『商店街を中心に子どもからお年寄りまでが暮らしやすく、多くの人が集まるとともに地域の資源、歴史を未来につなぐ「ネオ下町』』となった。
- ・新駅②の目指す姿を考えるうえで重要となるキーワードとして、「何があって暮らしやすいのか」「商店街が暮らしの中心となり、活性化している」「歴史を受け継ぎ、文化をひらく」「千石と千田」といったことが挙げられた。

テーマ③：新駅②周辺で目指す姿実現に向けた取り組み

- ・「子どもからお年寄りまで暮らしやすいまち」の実現のために、自分のまちを知ること・興味を持つこと、地域コミュニティづくり、自助・共助・公助に加えて『近助（所）』の取り組みを行う。その結果、安全や憩いの場が確保され、子育て世代が安心できるまちが実現するという意見が挙げられた。
- ・「多くの人が集まるまち」の実現に向けて、歩行者空間の整備、仙台堀川公園に飲食店等を誘致すること等の取り組みによりまちを歩く人が増える、集まるようになるとの意見が挙げられた。
- ・「地域の歴史資源を未来につなぐまち」の実現に向けて、「うなぎ」を推した商店街の活性化や名物をつくる等の取り組みにより、来訪者が増える等の成果が生まれるとの意見が挙げられた。
- ・「芸術・アートを体感できるまち」の実現に向けて、幼稚園と商店街が連携したシャッターアート、体験型美術館、若手アーティスト作品の購入や子供も入場可能なギャラリーの設置等により、若年層やアートに興味のある人の来訪が増える等の成果が生まれるとの意見が挙げられた。



(仮称)住吉駅周辺

■グループワークでの意見のまとめ

テーマ②：住吉駅周辺で目指す姿から考える沿線全体で目指す姿

- ・住吉駅の考える沿線全体での目指す姿は『温故知新（新旧融合）』
- ・沿線全体で目指す姿を考えるうえで重要となるキーワードとして、「水のまち」「水辺空間」「新旧融合」「コミュニケーション」「下町の台所」「個性（らしさ）がある」「話題になるような新しいスポット」といったことが挙げられた。

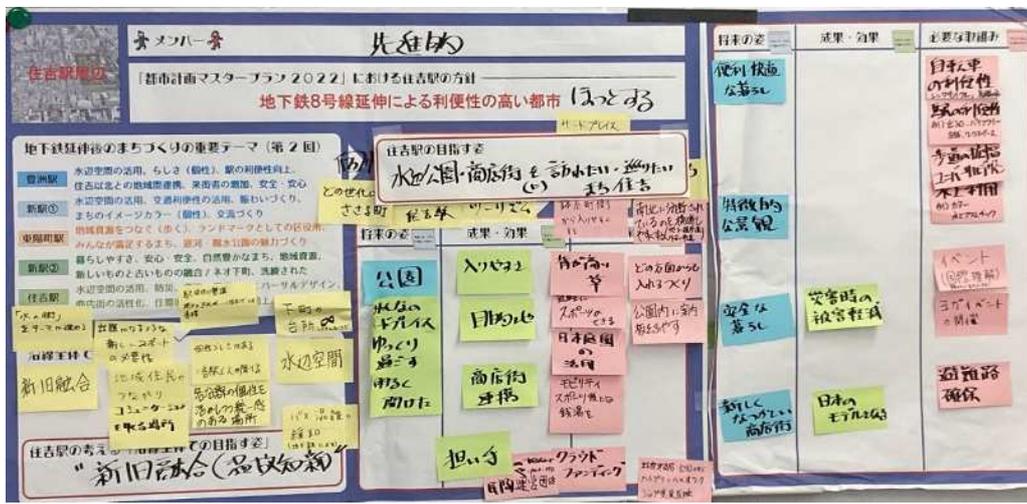


テーマ②の後、住吉駅の目指す姿について再度整理を行った。

- ・住吉駅の目指す姿としては『水辺公園・商店街を訪れたい・巡りたいまち 住吉』となった。
- ・住吉駅の目指す姿を考えるうえで重要となるキーワードとして、「サードプレイス」「どの世代にもささる」「マイクロツーリズム」「降りたくなる住吉駅」といったことが挙げられた。

テーマ①：住吉駅周辺で目指す姿実現に向けた取り組み

- ・住吉駅の目指す姿を実現するための重要なキーワードとして「公園」「商店街」「水辺」「便利・快適な暮らし」「安全な暮らし」「特徴的な景観」が挙げられた。
- ・「公園」については、特に猿江恩賜公園について、入りやすさの向上、日本庭園の活用、気軽にスポーツができる場であることの周知、公園内の施設整備により、スポーツと憩いが一体となり、目的地やサードプレイスになるとの意見が挙げられた。
- ・「商店街」については、憩いの場を創出すること、地域通貨の導入、公園内へ出店等の公園との連携が必要との意見が挙げられた。
- ・「水辺」については、船着き場の活用、公園と遊歩道との接続等により、駅と駅の回遊性の創出につながるとの意見が出された。
- ・「便利で快適な暮らし」実現のため、自転車の利便性向上、歩道の拡幅とユニバーサルデザイン化、まちづくりの担い手創出のためのクラウドファンディング実施や、ワークショップ意見の公園マネジメントプランへの反映が必要との意見があった。



講評と総括

■グループワークの講評

・芝浦工業大学 志村教授



- ✓ 沿線全体での目指す姿を個人的に考えてみたが「若い人を取込み、受け継がれるまちをつくる」ことではないかと思った。
- ✓ 住吉駅、新駅②については大きな開発がいきなり進むというよりも沿線全体でみた時に徐々に進んでいく開発が進んでいく、取り組んでいく地区ではないかと思う。
- ✓ 駅、公園、水辺については江東区だけで何とかできるものではなく、東京都も巻き込み、住民の皆さまにも行動していただき、3者が連携することが必要だと思う。

・芝浦工業大学 桑田教授



- ✓ 沿線全体でみた時に「水と緑」は各地区共通だが、東陽町は文化資源が豊富であると感じた。木場公園や現代美術館も含め延伸によりつながることでアピールできるのではないかと思う。
- ✓ 東陽町駅から北に上がっていく四ツ目通りは大事な場所ではないかと思う。そこから周辺の運河や川という大事な資源が広がっている。四ツ目通りが歩きにくいという意見もあり歩きたくなる仕掛けが多くないため、今後のポイントになるのではないかと思う。

・芝浦工業大学 佐藤教授



- ✓ チャレンジというキーワードが出たことから考えると目指す姿は「チャレンジが生まれることによって豊洲にしかないポテンシャルを使いこなし伸びていくまち」ではないかと思う。
- ✓ 新駅①は賑わいの一方で静けさという言葉が出る等繊細な議論であったが大事なことだと思う。こういうことを地域で共有しルール化し変化をコントロールしていくためにも議論を続けてほしい。
- ✓ 水辺活用のポイントは少しのルール変更だと思う。

(3) 出前講座

① 目的

- ・ 中間新駅設置が予定されている付近の小学校（川南小学校、扇橋小学校、枝川小学校）の5年生を対象に出前講座「203X年のみんなのまちを考えよう」を実施し、「未来のまち」をテーマとした絵画等を作成してもらいました。



② 実施概要

学校	年月日	対象	科目
扇橋小学校	令和4年9月15日（木）	5年生 3クラス	総合
枝川小学校	令和4年9月16日（金）	5年生 4クラス	
川南小学校	令和4年9月20日（火）	5年生 2クラス	

③ 成果の一部（「未来のまち」の絵画等）

■川南小学校



■扇橋小学校



■枝川小学校



(4) 機運醸成イベント

今後、とりまとめし作成。

(5) 説明会（オープンハウス型）

今後実施し作成。

(6) パブリックコメント

今後実施し作成。

(7) 説明会 (従来型)

区から資料を入手し作成。

3. 用語集

あ行	
アジェンダ	実施計画や行動計画あるいは協議事項のこと。
イート	食べること。食に関連する多様な事項を含む幅広い概念として使われることもある。
ウォークابل	居心地が良く歩きたくなるまちの様子。通行やアクセスのための従来の歩行空間に加え、歩行者の滞留やにぎわい空間の創出を目的とした新たな制度や取組が各所で進行している。
エコロジカルネットワーク	生き物が生息・生育する様々な空間（緑地・水辺等）がつながる生態系ネットワークのこと。
エリアブランディング	その地域の魅力や価値を発信し、その地域の認知度を上げていくことを指す。地域ブランディングの対象となるものとしては、名産品や文化財のような「物」ばかりではなく、文化やイベントなどの「体験」も含まれる。
エリアまちづくり方針	地域住民等の発意と主体的な活動により、魅力増進や課題解決に向けて、面的なまちづくりの方向をエリア単位で示すまちづくり方針のこと。
説明会（オープンハウス型）	説明パネルなどの展示とあわせ、主催者の担当者が参加者の方に対して説明し、ご意見を伺う形式の説明会。
オープンカフェ	道路に面した壁を取り払って、テラスのように開放的な構造にしたカフェやレストラン。
か行	
街路事業	都市計画法に基づいた道路等を都市計画事業として整備する事業。
カーシェア	カーシェアリングの略語。登録を行った会員間で車を共同で使用するサービスのこと。
基金	独立行政法人、公益法人等や地方公共団体が、国から交付された補助金等を原資として、特定の用途に充てるため、他の財産と区分して保有する金銭。
拠点避難所	地震などの災害により自宅で生活ができなくなった地域住民の生活の場として、区が災害の規模に応じて区立小中学校、高等学校、公共施設、民間施設に順次開設する避難者受入施設を「避難所」という。このうち、区立小中学校は、在宅被災者を対象とした食料・水・生活物資の配給（原則として発災後4日目以降）や、地域の情報収集等の活動拠点としての役割も担う避難所を「拠点避難所」という。
緊急輸送道路	高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線的な道路並びにこれらの道路と知事が指定する拠点（指定拠点）とを連絡し、又は指定拠点を相互に連絡する道路のこと。

交通政策審議会	日本において国土交通省設置法（平成11年7月16日法律第100号）に基づき国土交通省内に設置された審議会等のひとつ。
コミュニティ	地域社会あるいは共同体のこと。本来は地域に根付いた地域共同体を意味するが、国際的な連帯（欧州共同体）やネット上の仲間などにも使用される。
コミュニティサイクル	一定の地域内に複数配置された専用駐輪場（コミュニティサイクルポート）であれば、自由に自転車の貸出・返却をすることができる乗り捨て型の自転車共有事業。
コミュニティバス	地域住民の移動手段を確保するために地方自治体等が運行するバス。

さ行

再開発促進区	土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の増進とを図るため、地区計画において一体的かつ総合的な市街地の再開発又は開発整備を実施すべき区域。
サステナブル	「持続可能な」「ずっと続けていける」という意味であり、近年は、地球環境の持続可能性、人間社会の文明・経済システムの持続可能性の意味や概念として一般的に用いられている。
サードプレイス	家庭を第一の場所、職場や学校を第二の場所としたときの、それ以外の公共的であり、創造的な交流が生まれる居心地の良い場のことを指す。
市街地再開発事業	都市再開発法に基づき、市街地内の老朽木造建築物が密集している地区等において、細分化された敷地の統合、不燃化された共同建築物の建築、公園、広場、街路等の公共施設の整備等を行い、都市における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図る事業。
審議会	国（政府）または地方自治体などの行政庁に付随する行政機関、あるいは民間の組織などに任意に設けられる合議制の諮問機関の名称の一つ。
スーパーシティ	先端技術を活用した遠隔教育や医療、ドローン（無人航空機）による自動配送や自動車の自動運転、キャッシュレス決済（現金を使わずに支払いを済ませる決済方法）などのサービスを住民へ提供する「住みやすい未来都市」のこと。

た行

地区計画	地区レベルでのまちづくりの要請に応え、住民の生活に結びついた地区を単位として、道路・公園などの配置や建築物に関する制限などについて、地区の特性に応じてきめ細かく定める都市計画法の手続によるまちづくりの計画。
地区内残留地区	地区の不燃化が進んでおり、万が一火災が発生しても地区内に大規模な延焼火災のおそれがなく、広域的な避難を要しない地区。
地区まちづくり方針	主に駅を中心にその周辺での魅力増進や課題解決を目指し、土地利用や地域資源を活かしたまちづくりの方向性を地区レベルで示した

	まちづくり方針のこと。
中核広域拠点域	道路・交通ネットワークの高い結節性を持ち、広域的な観点から、高度な都市機能の集積を図る拠点のエリア。
都市OS	スーパーシティによって実現する物流、医療、福祉、防災など様々な新しいサービスを提供するための基盤。
都市計画マスタープラン	1992年（平成4年）の都市計画法改正により規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」（法第18条の2）のこと。
都市計画公園	都市計画法に基づいて都市計画決定された公園。防災や避難場所の確保、ヒートアイランド現象の緩和等、都市が抱える課題の解決を図ると同時に、緑地が環境保全や住民の健康、文化的な生活に欠かせないものであるという観点から整備を目指すもの。
都市計画道路	都市の骨格を形成し、安心して安全な市民生活と機能的な都市活動を確保する都市交通における最も基幹的な都市施設として都市計画法に基づいて都市計画決定された道路。

な行

ネットワーク	網状のもの、通信網のこと。網そのものを指す用法の他に、複数の要素が互いに接続された網状の構造のことを比喩的にネットワークという。
--------	--

は行

パブリックコメント	行政機関が実施しようとする計画・取組について、あらかじめ案を公表し、住民に意見を求め、それを考慮して決定する制度。
バリアフリー化	心身の障害などハンディキャップのある人にとって、物理的（建物構造・交通機関など）、文化・情報面（点字・手話・音声案内・字幕・分かりやすい表示の不備）などの障壁が取り除かれた状態に向けた取組。
避難所	地震などの災害により自宅で生活ができなくなった地域住民の生活の場として、区が災害の規模に応じて区立小中学校・義務教育学校、高等学校、公共施設、民間施設に順次開設する避難者受入施設。
避難場所	震災時に拡大する火災から住民を安全に保護するため、東京都が指定する場所。公園、団地、大学などが指定されている。
ヘルスケア	健康の維持や増進のための行為や健康管理のことです。昨今では医師に頼らず自分で治療を行うセルフメディケーション（自己治療）が同様の意味で使われていることもある。
ベイエリア	都市の水辺地区。特に、港湾施設がある地区をその後背地まで含めていう。湾岸地域。
防災船着場	大地震などの災害時において、陸上輸送に代わり、河川を利用した緊急物資の輸送と物資の荷役、人員の輸送を円滑に行うために、背後に多くの住民が生活する都市河川に整備する船着場をいう。

ま行	
マイクロツーリズム	自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態のこと。
モビリティ	動きやすさや移動性、流動性のこと。人々の自由な移動と、これを支える多様な移動の仕組みを含む幅広い意味で使われる。
や行	
ユニバーサルデザイン	障害の有無、年齢、性別、人種などに係らず、多様な人が利用しやすいよう、都市や生活環境をデザインする考え方。
ら行	
ランドマーク	目印となる建造物などの特徴物を指す。元来の意味としては、探検家などが、一定の地域を移動中に、またそこに戻ってくるための目印をいう。
リカバリー	回復、復旧すること。回復や復旧を意味する概念として利用されることもある。
レクリエーション	仕事・勉強などの肉体的・精神的疲労をいやし、元気を回復するために休養をとったり娯楽を行ったりすること。
わ行	
ワークショップ	地域にかかわるさまざまな立場の人々が自ら参加して、地域社会の課題を解決するための共同作業。
E	
eSG ESG	本来のESGは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取って作られた概念。気候変動問題などの世界的な課題が顕在化している中、持続的成長を目指す上で重視すべき視点である。東京都「東京ベイ eSG まちづくり戦略2022」では、eには、生態学などのエコロジー、経済のエコノミー、画期的・革新的のエポックメイキングの意味を込め、さらにはSとGには、東京の礎を築いてきた偉大な先人である渋沢栄一や後藤新平のイニシャルの意味を加えて、その精神を受け継ぐ想いも込められている。
S	
SDGs	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標（Sustainable Development Goals）のこと。まちづくりにおいてもSDGsの目標達成に貢献する取組を展開する。
SNS	SNSは「Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）」の略。登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。
W	
Web	世界中どこにいても、コンピューターなどによって情報を得られるシステム「World Wide Web（ワールドワイドウェブ）」の略。

地下鉄8号線沿線まちづくり構想

令和5年3月

編集発行：江東区 都市整備部 地下鉄8号線事業推進課

江東区東陽 4-11-28

電話 03 (3647) 9111 (代表)